

# 平成27年度食の安心・安全アンケート調査結果について

## 1 調査の概要

### (1) 目的

府民の食の安心・安全に係る意識を把握し、京都府における食の安全や信頼性の確保の推進に資する。

### (2) 調査対象

府民（内 暮らしの安心推進員（食品表示チーム）284名）

### (3) 調査方法

インターネット及び郵送書面調査

### (4) 実施期間

平成28年3月1日～3月31日

### (5) 有効回答数

229名（内 インターネット回答数 43名）

回答者の平均年齢（推定） 約61歳

（ インターネット回答（推定）約49歳  
 郵送書面回答（推定） 約64歳 ）

#### 【京都府暮らしの安心推進員】

趣 旨 府民協働による食の安心・安全確保と消費者被害の未然防止。  
食の安心・安全推進課と消費生活安全センター（府民生活部）が  
連携して設置。

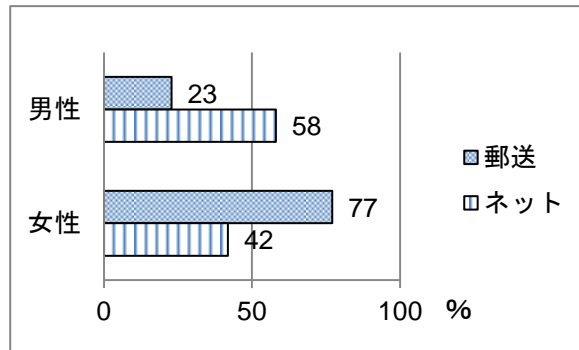
活動内容 ・食品表示の監視  
・食の安心・安全情報の伝達  
・消費者トラブル未然防止・早期発見のための見守り活動

## 2 調査結果

### (1) 回答者属性

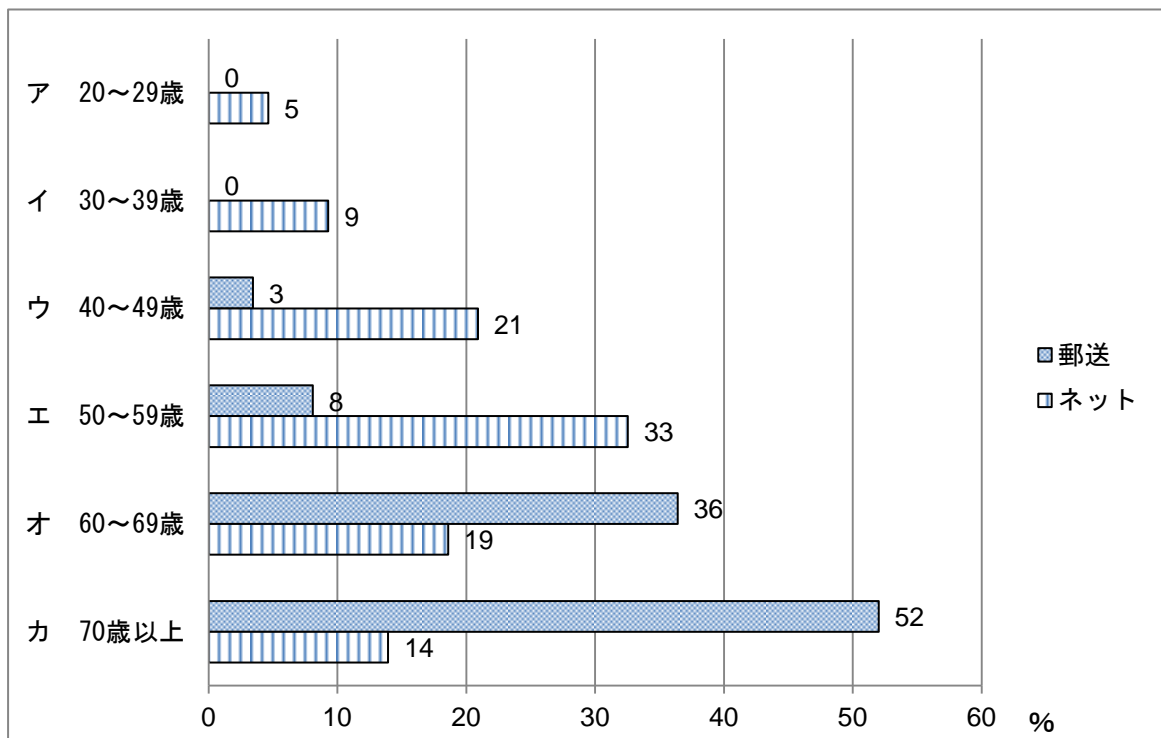
#### ア 性別（人）

|     | 男性          | 女性           | 合計            |
|-----|-------------|--------------|---------------|
| 郵送  | 40<br>(23%) | 135<br>(77%) | 175<br>(100%) |
| ネット | 25<br>(58%) | 18<br>(42%)  | 43<br>(100%)  |
| 合計  | 65<br>(30%) | 153<br>(70%) | 218<br>(100%) |



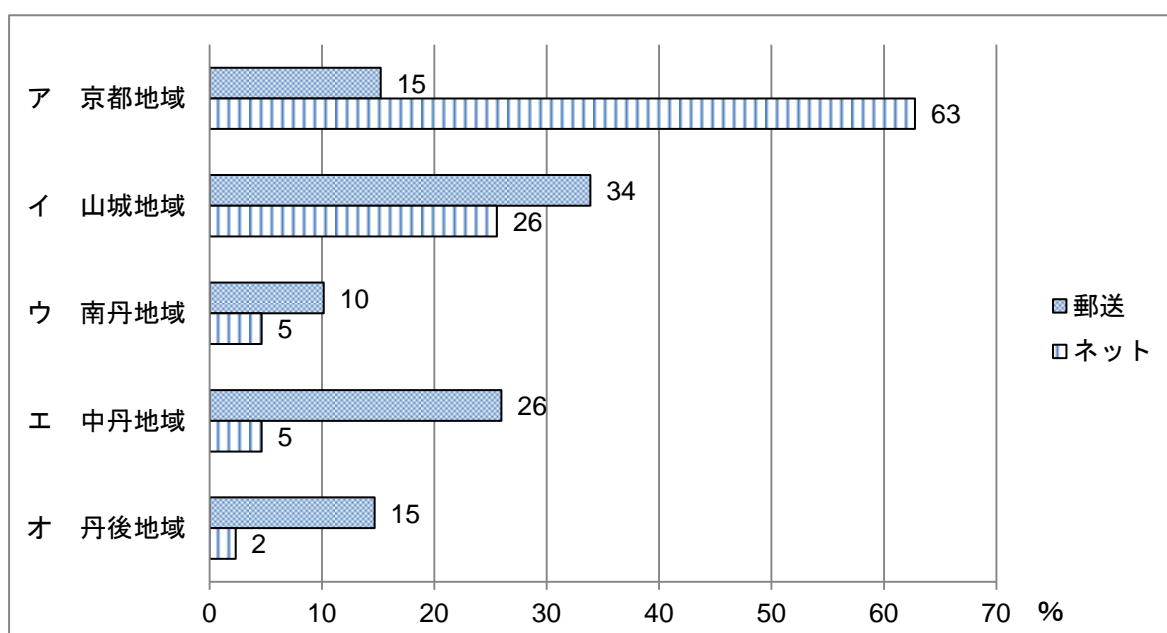
#### イ 年代（人）

|     | ア<br>20～29歳 | イ<br>30～39歳 | ウ<br>40～49歳 | エ<br>50～59歳 | オ<br>60～69歳 | カ<br>70歳以上  | 合計            |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 郵送  | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 6<br>(3%)   | 14<br>(8%)  | 63<br>(36%) | 90<br>(52%) | 173<br>(100%) |
| ネット | 2<br>(5%)   | 4<br>(9%)   | 9<br>(21%)  | 14<br>(33%) | 8<br>(19%)  | 6<br>(14%)  | 43<br>(100%)  |
| 合計  | 2<br>(1%)   | 4<br>(2%)   | 15<br>(7%)  | 28<br>(13%) | 71<br>(33%) | 96<br>(44%) | 216<br>(100%) |



### ウ 住まいの地域（人）

|     | ア<br>京都地域   | イ<br>山城地域   | ウ<br>南丹地域   | エ<br>中丹地域   | オ<br>丹後地域   | 合計            |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 郵送  | 27<br>(15%) | 60<br>(34%) | 18<br>(10%) | 46<br>(26%) | 26<br>(15%) | 177<br>(100%) |
| ネット | 27<br>(63%) | 11<br>(26%) | 2<br>(5%)   | 2<br>(5%)   | 1<br>(2%)   | 43<br>(100%)  |
| 合計  | 54<br>(25%) | 71<br>(32%) | 20<br>(9%)  | 48<br>(22%) | 27<br>(12%) | 220<br>(100%) |



性別は、男性65人（30%）、女性153人（70%）であった。

年代別では、20～29歳が2人（1%）、30～39歳が4人（2%）、40～49歳が15人（7%）、50～59歳が28人（13%）、60～69歳が71人（33%）、70歳以上が96人（44%）であった。

地域別では、京都地域が54人（25%）、山城地域が71人（32%）、南端地域が20人（9%）、中丹地域が48人（22%）、丹後地域が27人（12%）であった。

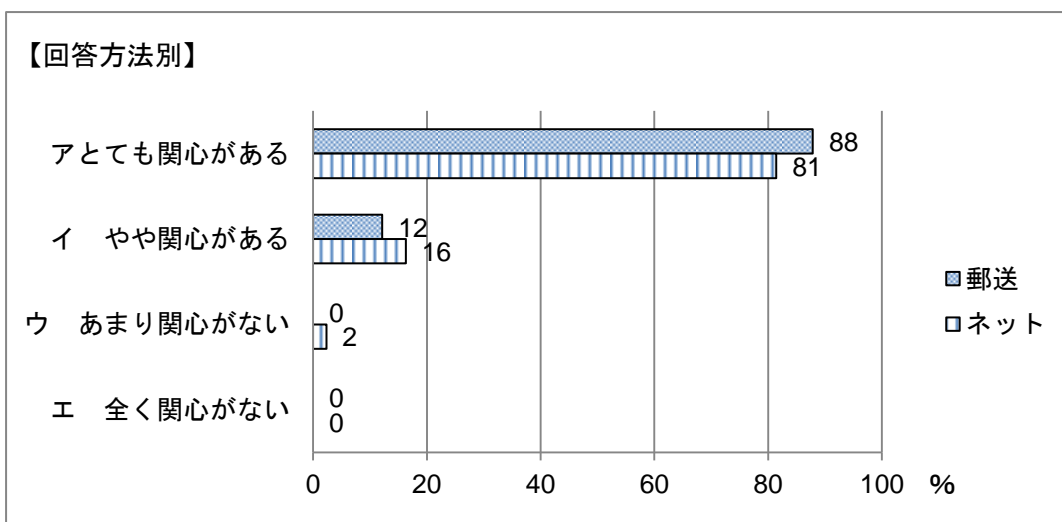
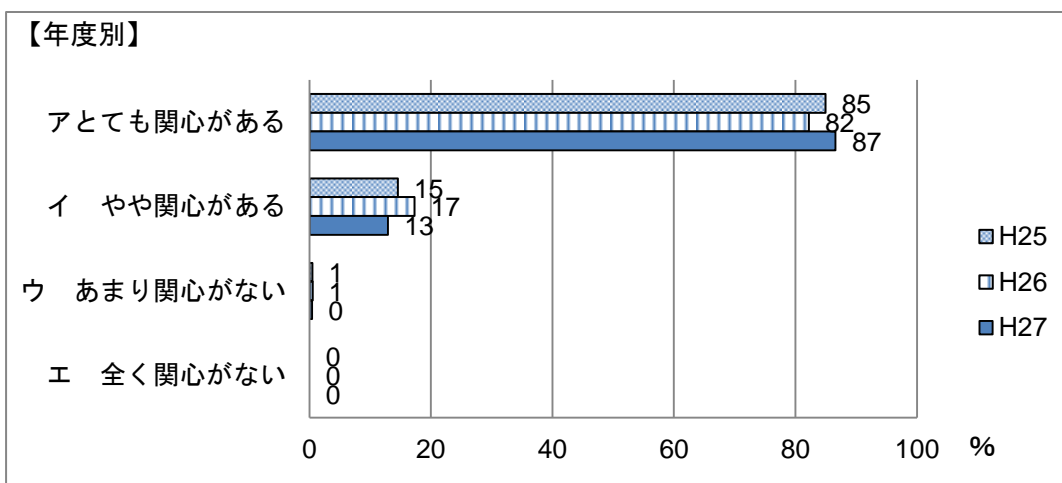
## (2) 食品安全への関心

問1 日常生活を取り巻く安全の分野には、自然災害、犯罪、交通安全、環境問題など様々なものがあります。

あなたは食品の安全について関心はありますか。次の中から1つ選んでください。ウ、エを選んだ方はその理由もお書きください。

(単位：人)

|            | 郵送         | ネット       | 合計         |
|------------|------------|-----------|------------|
| ア とても関心がある | 159 (88%)  | 35 (81%)  | 194 (87%)  |
| イ やや関心がある  | 22 (12%)   | 7 (16%)   | 29 (13%)   |
| ウ あまり関心がない | 0 (0%)     | 1 (2%)    | 1 (0%)     |
| エ 全く関心がない  | 0 (0%)     | 0 (0%)    | 0 (0%)     |
| 合計         | 181 (100%) | 43 (100%) | 224 (100%) |



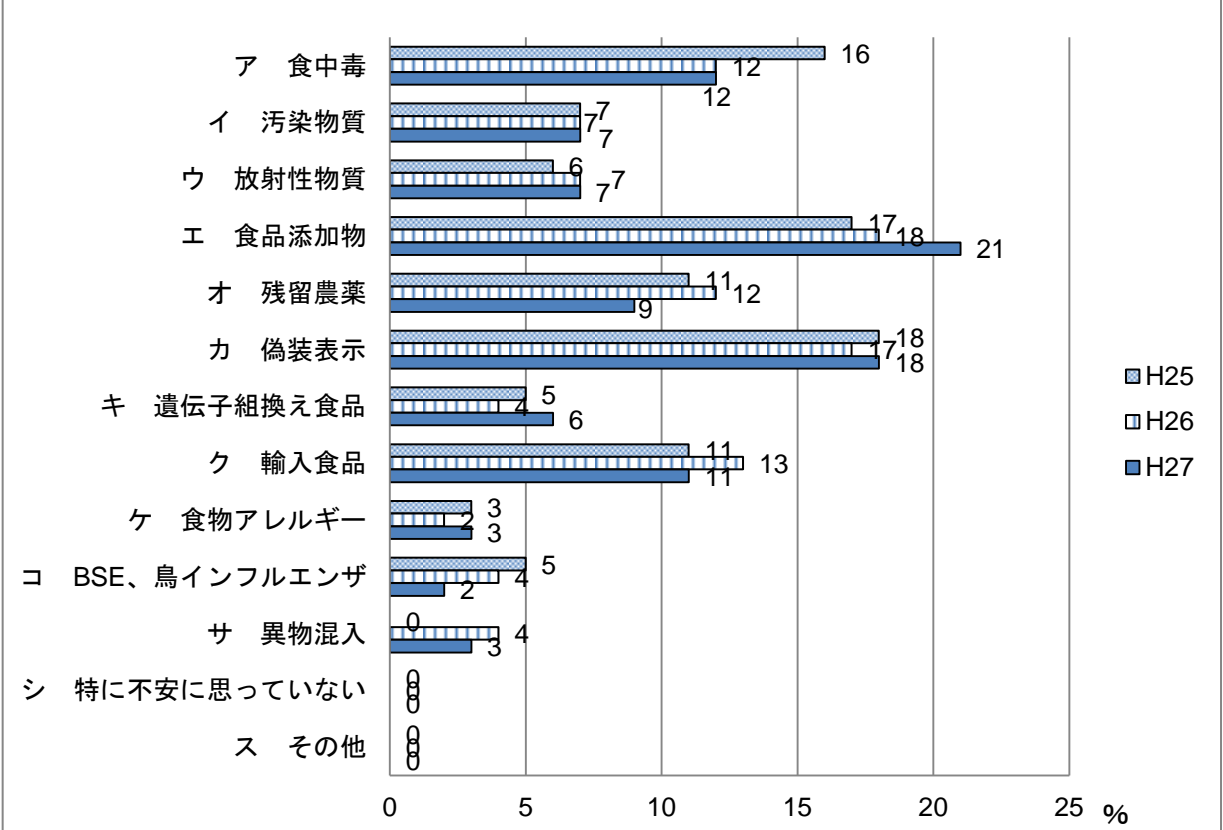
「とても関心がある」と回答した人は194人(87%)であり、「やや関心がある」と合わせると100%の人が食の安全について関心があると回答した。

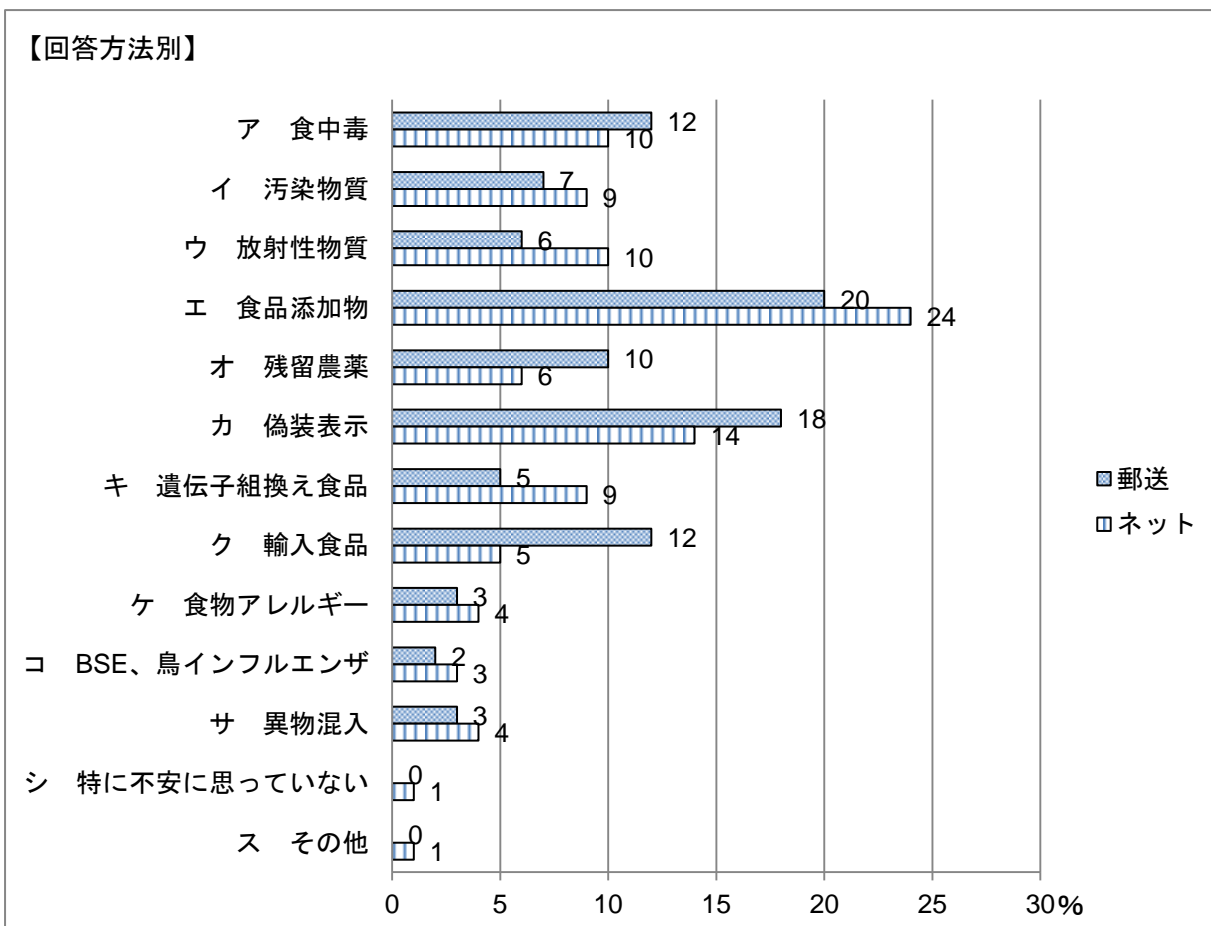
問2 食品の安全について、あなたが特に関心をもっていることは何ですか。  
次の中から3つまで選んでください。

(単位：人)

|                | 郵送         | ネット        | 合計         |
|----------------|------------|------------|------------|
| ア 食中毒          | 66 (12%)   | 12 (10%)   | 78 (12%)   |
| イ 汚染物質         | 38 (7%)    | 10 (9%)    | 48 (7%)    |
| ウ 放射性物質        | 34 (6%)    | 12 (10%)   | 46 (7%)    |
| エ 食品添加物        | 110 (20%)  | 28 (24%)   | 138 (21%)  |
| オ 残留農薬         | 52 (10%)   | 7 (6%)     | 59 (9%)    |
| カ 偽装表示         | 99 (18%)   | 16 (14%)   | 115 (18%)  |
| キ 遺伝子組換え食品     | 26 (5%)    | 11 (9%)    | 37 (6%)    |
| ク 輸入食品         | 67 (12%)   | 6 (5%)     | 73 (11%)   |
| ケ 食物アレルギー      | 17 (3%)    | 5 (4%)     | 22 (3%)    |
| コ BSE、鳥インフルエンザ | 13 (2%)    | 3 (3%)     | 16 (2%)    |
| サ 異物混入         | 14 (3%)    | 5 (4%)     | 19 (3%)    |
| シ 特に不安に思っていない  | 1 (0%)     | 1 (1%)     | 2 (0%)     |
| ス その他          | 1 (0%)     | 1 (1%)     | 2 (0%)     |
| 合計             | 538 (100%) | 117 (100%) | 655 (100%) |

【年度別】





【その他の意見】

- ・嗜好品、タバコ、酒、炭酸コココーラ等の害が放置されていることに疑問。(口にするので体内・食道を通して内臓に入り影響を及ぼすのにあまりにも無知で無関心の範囲である。)
- ・名の通った業者でも、信用できない。
- ・安心・安全の物差しが分からなくなっている。

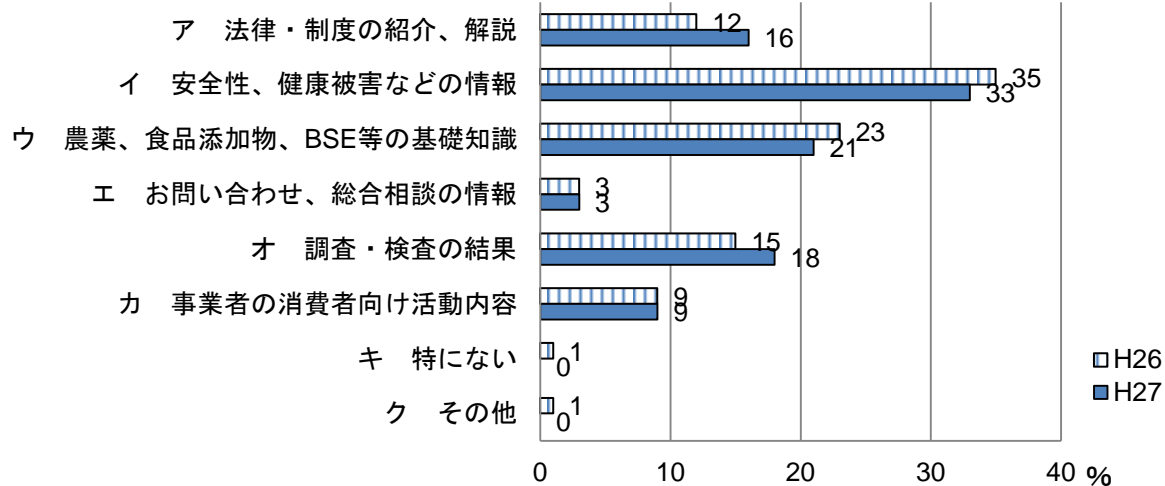
「食品添加物」と回答した人が最も多く、138人(21%)であった。次いで、「偽装表示」と回答した人が115人(18%)と多かった。

問3 食品の安全について、あなたがもっと知りたいと思う情報は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

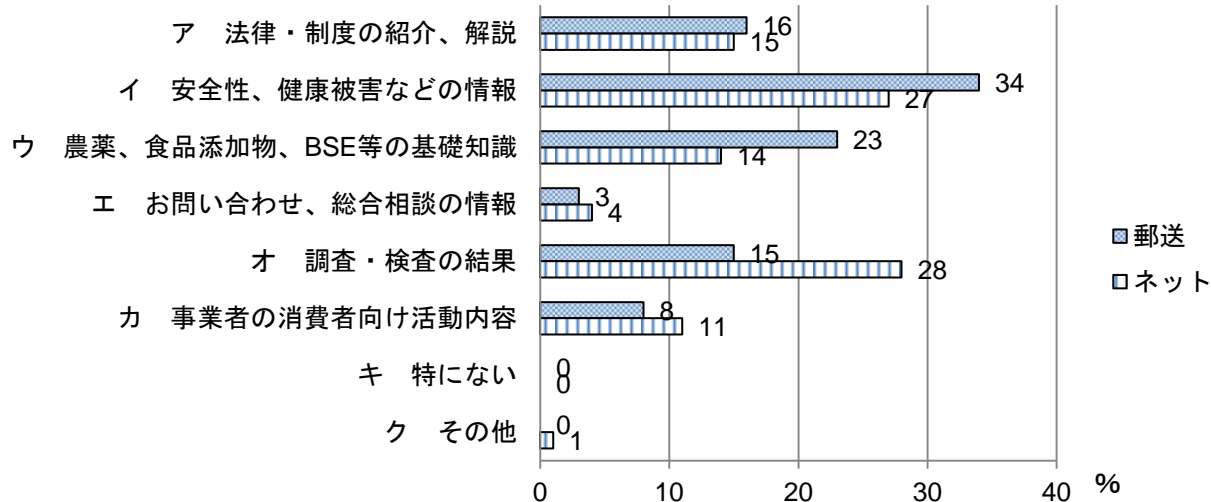
(単位：人)

|                      | 郵送         | ネット       | 合計         |
|----------------------|------------|-----------|------------|
| ア 法律・制度の紹介、解説        | 57 (16%)   | 13 (15%)  | 70 (16%)   |
| イ 安全性、健康被害などの情報      | 122 (34%)  | 23 (27%)  | 145 (33%)  |
| ウ 農薬、食品添加物、BSE等の基礎知識 | 82 (23%)   | 12 (14%)  | 94 (21%)   |
| エ お問い合わせ、総合相談の情報     | 12 (3%)    | 3 (4%)    | 15 (3%)    |
| オ 調査・検査の結果           | 55 (15%)   | 24 (28%)  | 79 (18%)   |
| カ 事業者の消費者向け活動内容      | 29 (8%)    | 9 (11%)   | 38 (9%)    |
| キ 特にない               | 0 (0%)     | 0 (0%)    | 0 (0%)     |
| ク その他                | 1 (0%)     | 1 (1%)    | 2 (0%)     |
| 合計                   | 358 (100%) | 85 (100%) | 443 (100%) |

【年度別】



【回答方法別】



#### 【その他の意見】

- ・ 一気飲みで死亡するなど、酒害による事故・事件が後を断たない。酒は最も危険な食品であるにも関わらず、嗜好品ということで消費者としての権利すら認められず意見を述べる窓口すらない。酒害に対する権利が生命尊厳に外れている。
- ・ 輸入食品の安全性
- ・ 地球環境を考えた表示（フードマイレージの情報提示の明確化）
- ・ 買い物の際に、脱炭素意識をもつこと。

「食の安全性、健康被害などの情報」と回答した人が最も多く、145人（33%）であった。次いで、「農薬、食品添加物、BSEなどについての基礎知識」94人（21%）、「食の安心・安全に関する調査、検査の結果」79人（18%）であった。

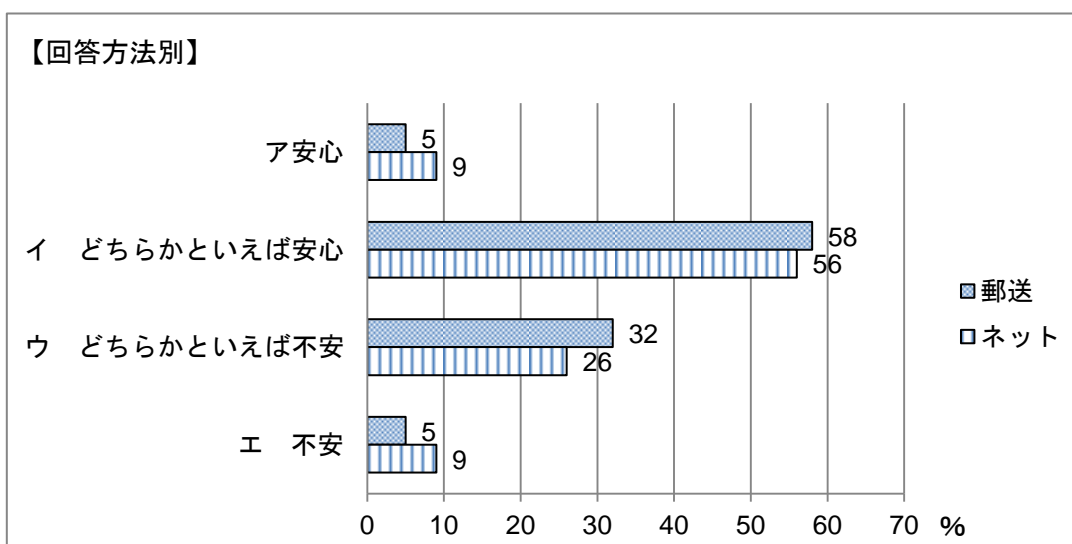
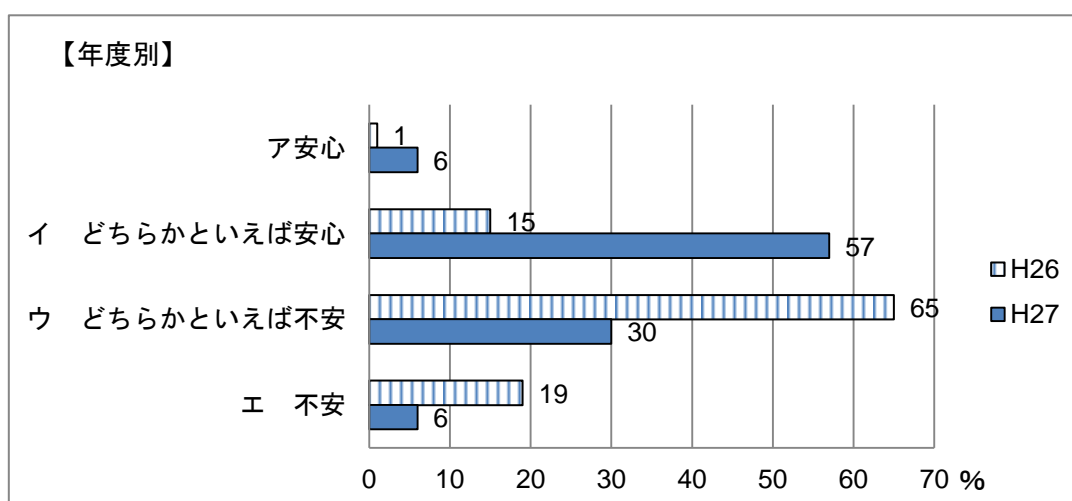


### (3) 食品の安心感

問4 あなたは、現時点での「食」についてどう感じていますか。  
次の中から1つ選んでください。

(単位：人)

|              | 郵送         | ネット       | 合計         |
|--------------|------------|-----------|------------|
| ア 安心         | 10 (5%)    | 4 (9%)    | 14 (6%)    |
| イ どちらかといえば安心 | 106 (58%)  | 24 (56%)  | 130 (57%)  |
| ウ どちらかといえば不安 | 58 (32%)   | 11 (26%)  | 69 (30%)   |
| エ 不安         | 10 (5%)    | 4 (9%)    | 14 (6%)    |
| 合計           | 184 (100%) | 43 (100%) | 227 (100%) |



「どちらかといえば安心」と回答した人が最も多く、130人(57%)であった。  
次いで、「どちらかといえば不安」と回答した人が69人(30%)であった。

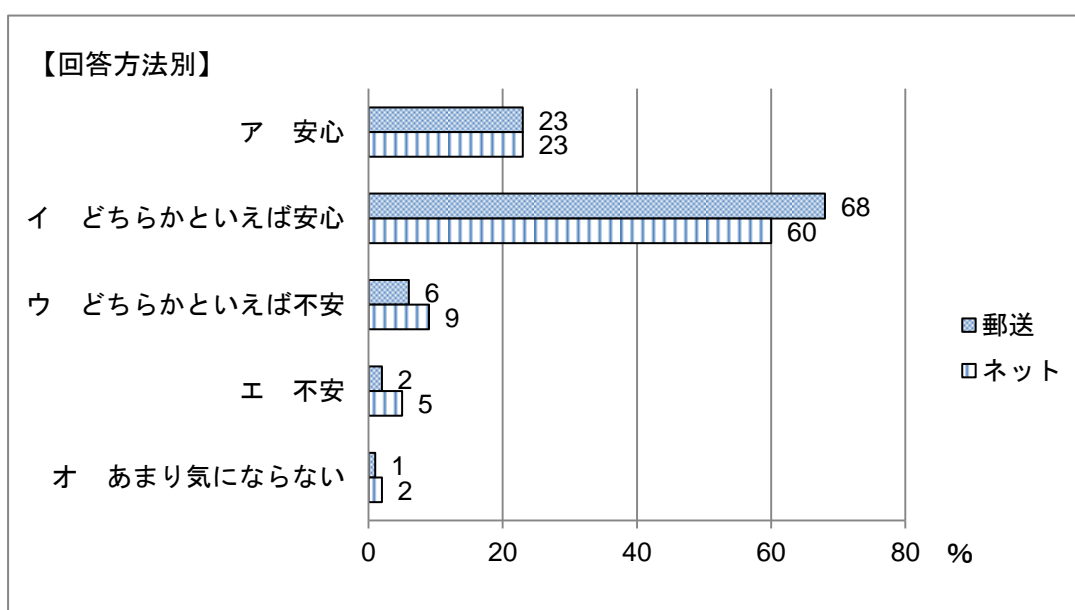
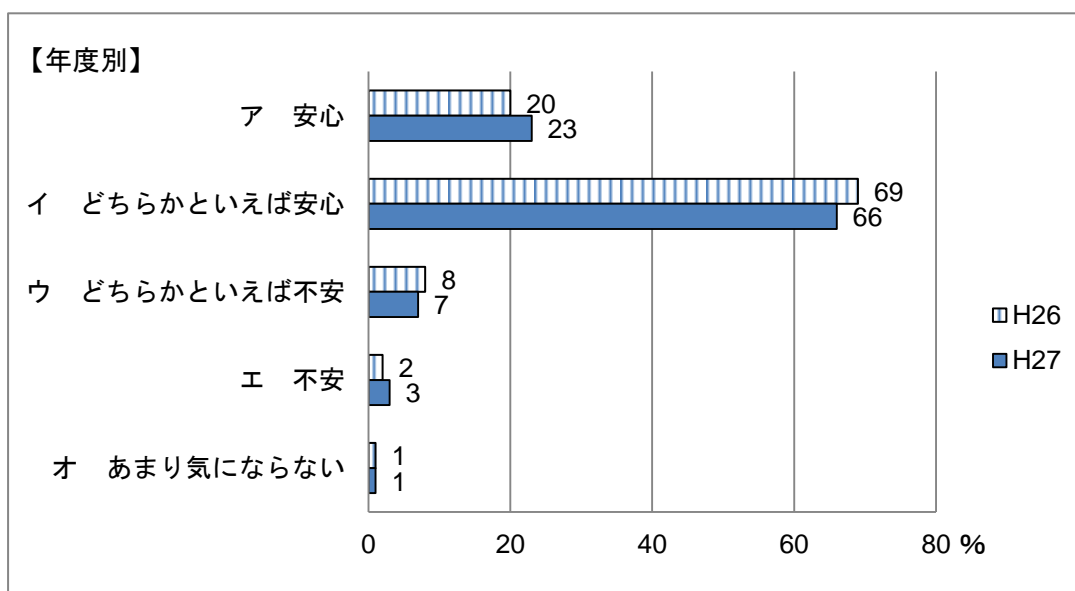
平成26年度調査結果と比較すると、「どちらかといえば安心」と回答した人が42%増加し、「どちらかといえば不安」と回答した人が35%減少した。

問5 あなたは、京都府産の食品の安心・安全についてどう感じていますか。  
次の中から1つ選んでください。

5-1 京都府産生鮮食品について

(単位：人)

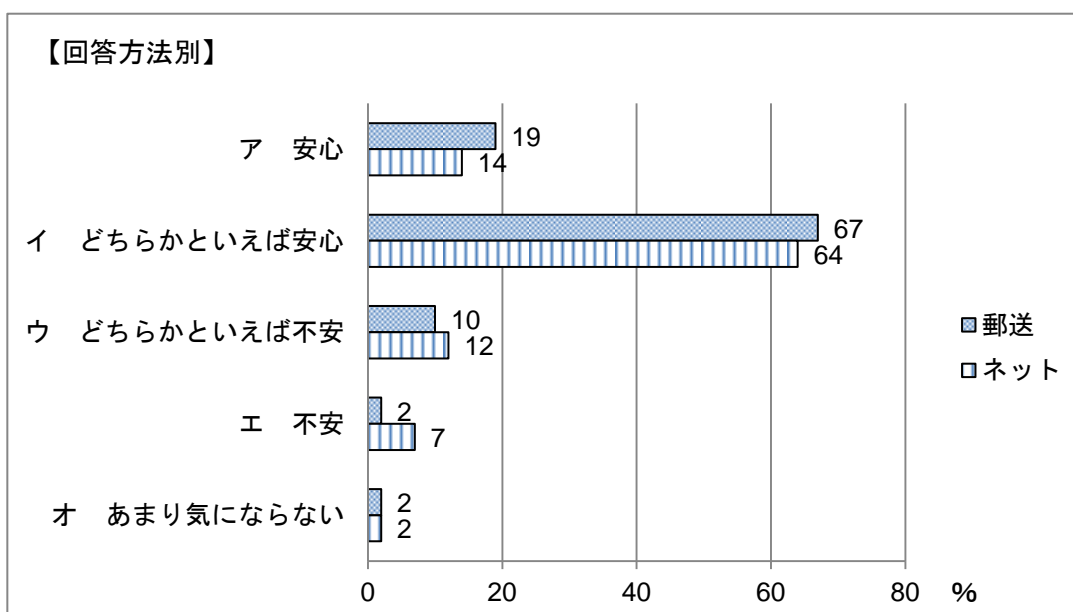
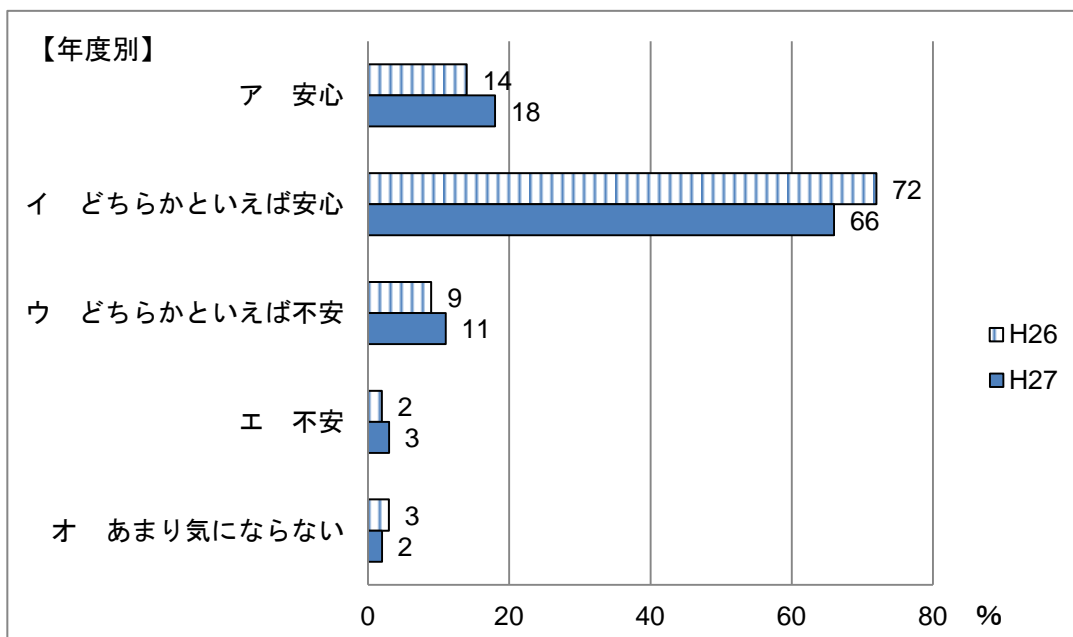
|              | 郵送         | ネット       | 合計         |
|--------------|------------|-----------|------------|
| ア 安心         | 43 (23%)   | 10 (23%)  | 53 (23%)   |
| イ どちらかといえば安心 | 126 (68%)  | 26 (60%)  | 152 (66%)  |
| ウ どちらかといえば不安 | 11 (6%)    | 4 (9%)    | 15 (7%)    |
| エ 不安         | 4 (2%)     | 2 (5%)    | 6 (3%)     |
| オ あまり気にならない  | 2 (1%)     | 1 (2%)    | 3 (1%)     |
| 合計           | 186 (100%) | 43 (100%) | 229 (100%) |



5-2 京都府産加工食品について

(単位：人)

|              | 郵送         | ネット       | 合計         |
|--------------|------------|-----------|------------|
| ア 安心         | 36 (19%)   | 6 (14%)   | 42 (18%)   |
| イ どちらかといえば安心 | 124 (67%)  | 27 (64%)  | 151 (66%)  |
| ウ どちらかといえば不安 | 19 (10%)   | 5 (12%)   | 24 (11%)   |
| エ 不安         | 4 (2%)     | 3 (7%)    | 7 (3%)     |
| オ あまり気にならない  | 3 (2%)     | 1 (2%)    | 4 (2%)     |
| 合計           | 186 (100%) | 42 (100%) | 228 (100%) |



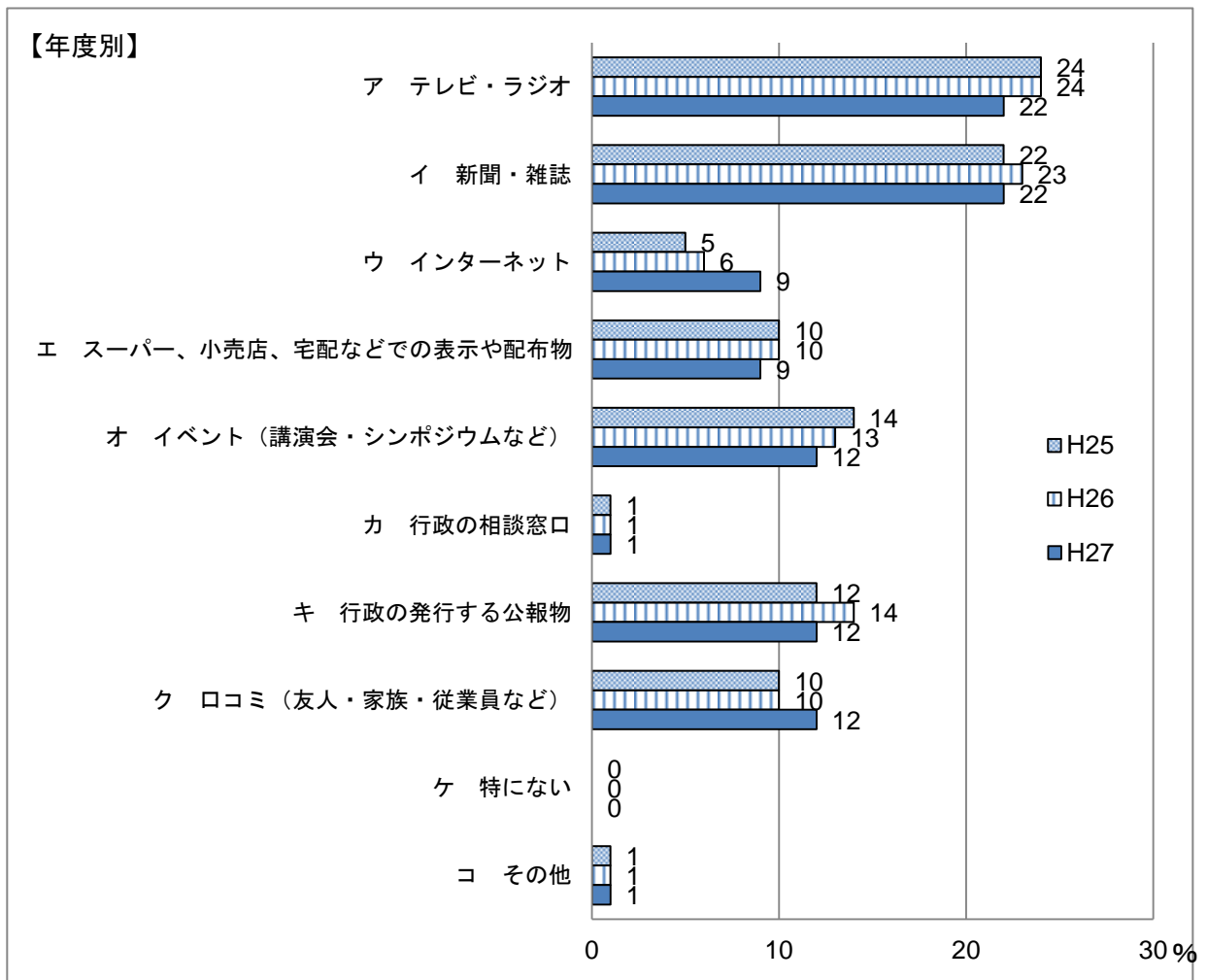
「安心」、「どちらかといえば安心」と回答した人は、生鮮食品では205人(89%)、加工食品では193人(84%)であり、京都府内産の食品への安心感が高かった。

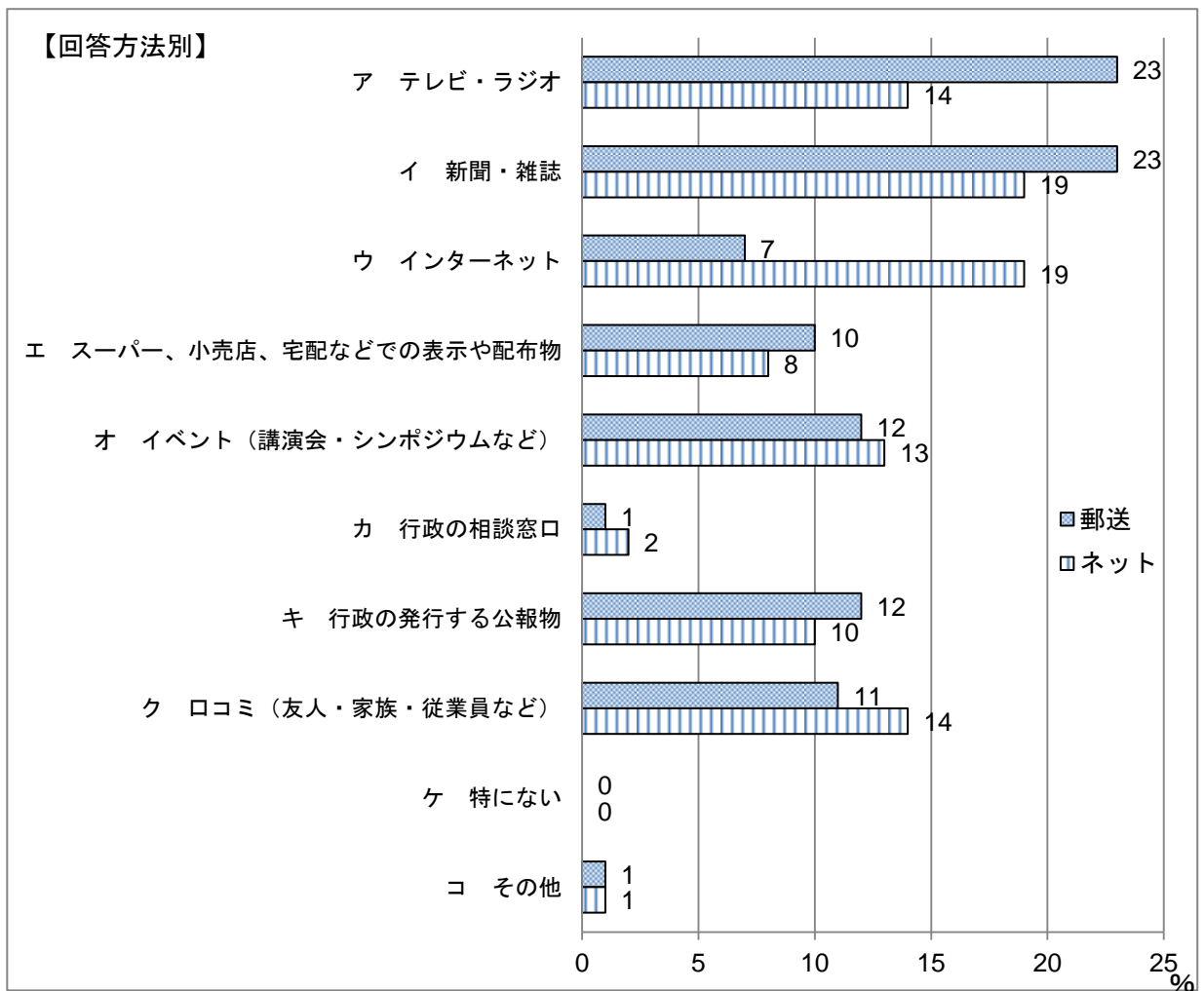
(4) 食品安全の情報源

問6 あなたは、食品の安全の情報について、どこから得ることが多いですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

(単位：人)

|                         | 郵送         | ネット        | 合計         |
|-------------------------|------------|------------|------------|
| ア テレビ・ラジオ               | 143 (23%)  | 18 (14%)   | 161 (22%)  |
| イ 新聞・雑誌                 | 140 (23%)  | 24 (19%)   | 164 (22%)  |
| ウ インターネット               | 41 (7%)    | 25 (19%)   | 66 (9%)    |
| エ スーパー、小売店、宅配などでの表示や配布物 | 59 (10%)   | 10 (8%)    | 69 (9%)    |
| オ イベント（講演会・シンポジウムなど）    | 72 (12%)   | 17 (13%)   | 89 (12%)   |
| カ 行政の相談窓口               | 4 (1%)     | 3 (2%)     | 7 (1%)     |
| キ 行政の発行する公報物            | 75 (12%)   | 13 (10%)   | 88 (12%)   |
| ク 口コミ（友人・家族・従業員など）      | 70 (11%)   | 18 (14%)   | 88 (12%)   |
| ケ 特にない                  | 2 (0%)     | 0 (0%)     | 2 (0%)     |
| コ その他                   | 7 (1%)     | 1 (1%)     | 8 (1%)     |
| 合計                      | 613 (100%) | 129 (100%) | 742 (100%) |





【その他の意見】

- ・食改活動勉強時に栄養士より学ぶ
- ・イベント広報が徹底していない（知らないだけかも）
- ・食の安心・安全推進課の情報
- ・勤務先
- ・取引先
- ・病院

「テレビ・ラジオ」と回答した人は161人（22%）、「新聞・雑誌」と回答した人は164人（22%）であり、マスメディアから情報を得ている人が最も多かった。

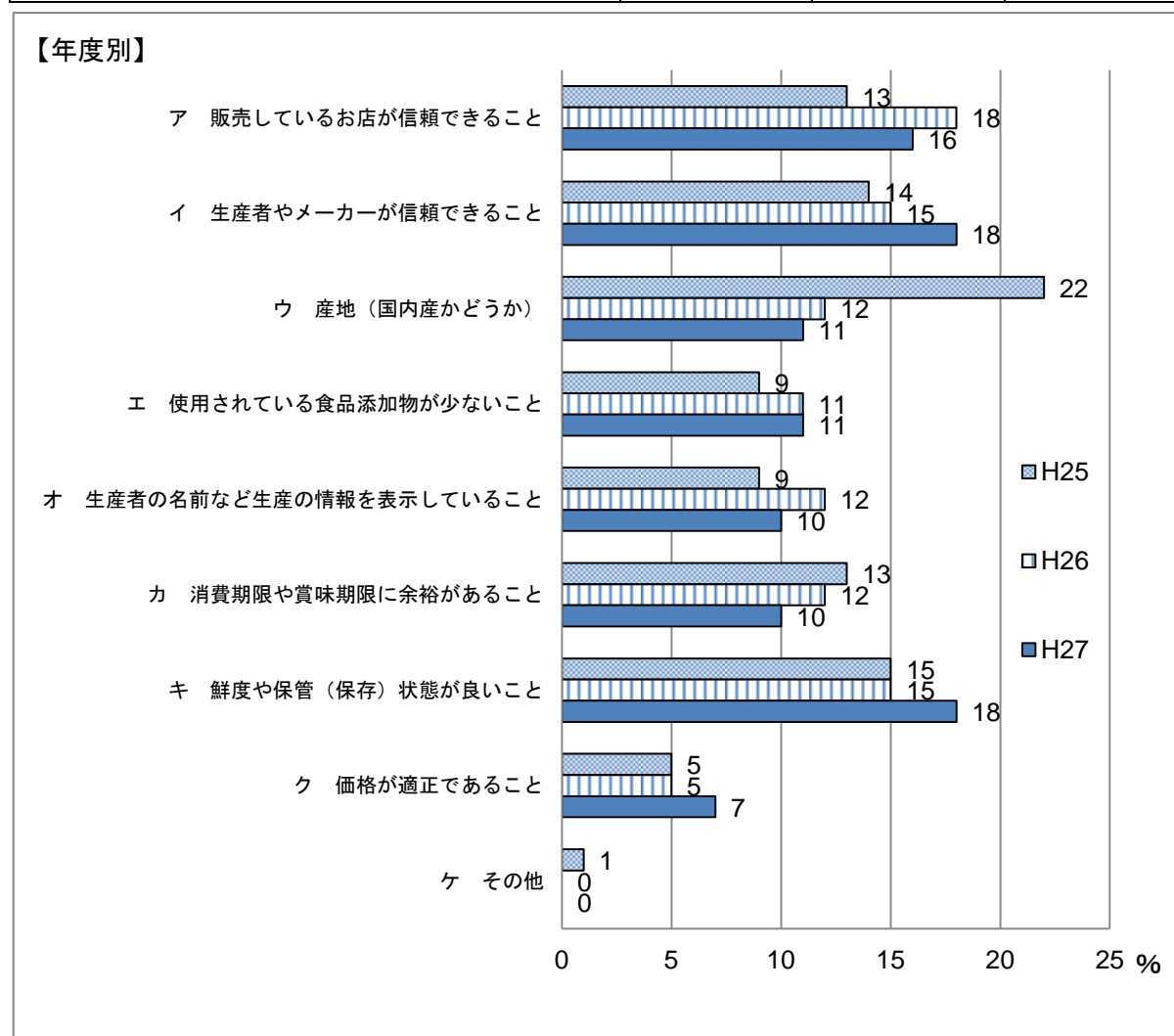
次いで、「講演会・シンポジウムなどのイベント」89人（12%）、「行政の発行する公報物」88人（12%）、「口コミ（友人・家族・従業員など）」88人（12%）であった。

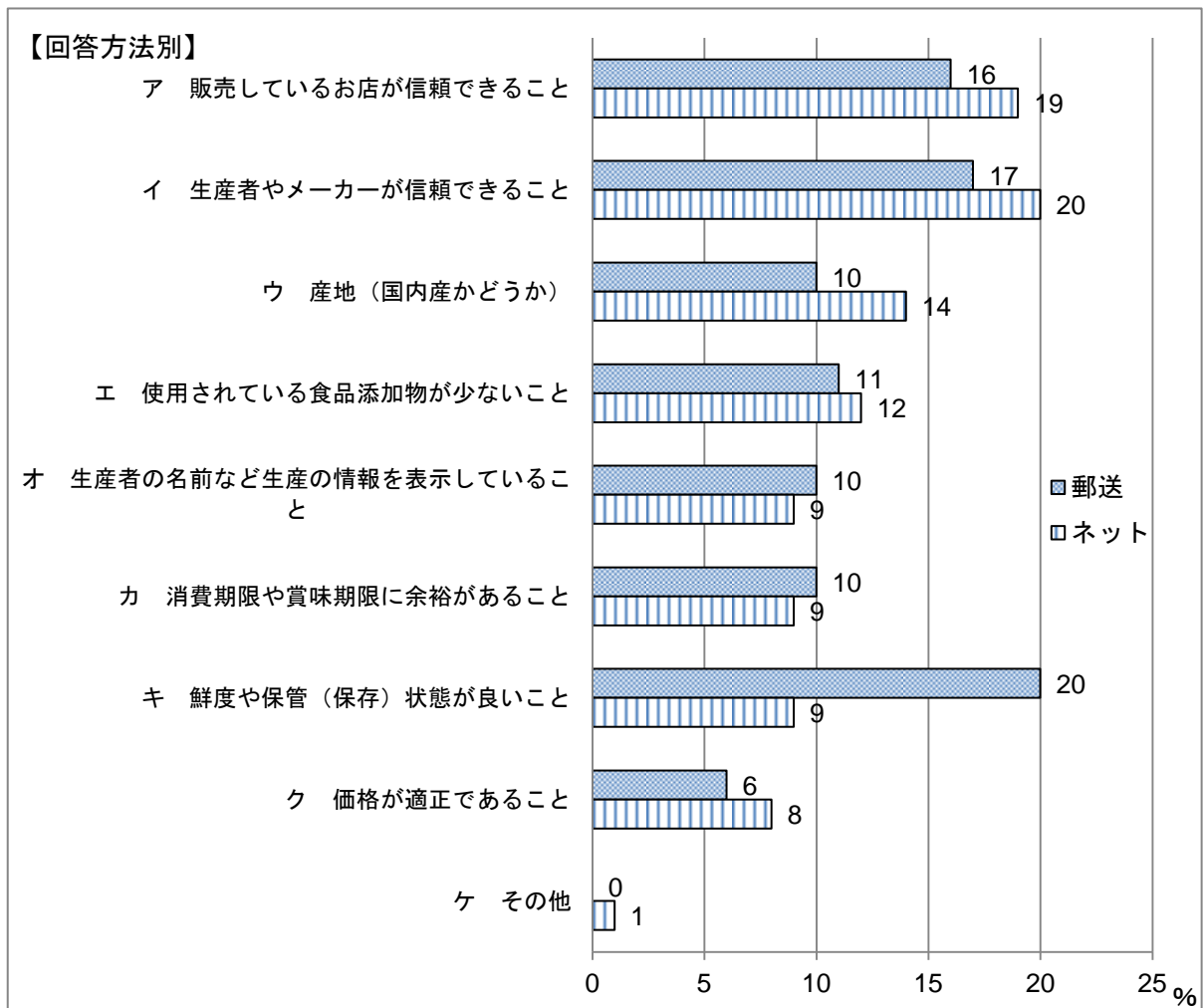
## (6) 食品選択の基準

問7 あなたは、食品を購入する時に、食品の安全についてどのような点を考慮していますか。次の中から**3つまで**選んでください。

(単位：人)

|                          | 郵送         | ネット        | 合計         |
|--------------------------|------------|------------|------------|
| ア 販売しているお店が信頼できること       | 87 (16%)   | 24 (19%)   | 111 (16%)  |
| イ 生産者やメーカーが信頼できること       | 94 (17%)   | 25 (20%)   | 119 (18%)  |
| ウ 産地（国内産かどうか）            | 55 (10%)   | 18 (14%)   | 73 (11%)   |
| エ 使用されている食品添加物が少ないこと     | 59 (11%)   | 15 (12%)   | 74 (11%)   |
| オ 生産者の名前など生産の情報を表示していること | 56 (10%)   | 11 (9%)    | 67 (10%)   |
| カ 消費期限や賞味期限に余裕があること      | 55 (10%)   | 12 (9%)    | 67 (10%)   |
| キ 鮮度や保管（保存）状態が良いこと       | 107 (20%)  | 12 (9%)    | 119 (18%)  |
| ク 価格が適正であること             | 34 (6%)    | 10 (8%)    | 44 (7%)    |
| ケ その他                    | 0 (0%)     | 1 (1%)     | 1 (0%)     |
| 合計                       | 547 (100%) | 128 (100%) | 675 (100%) |



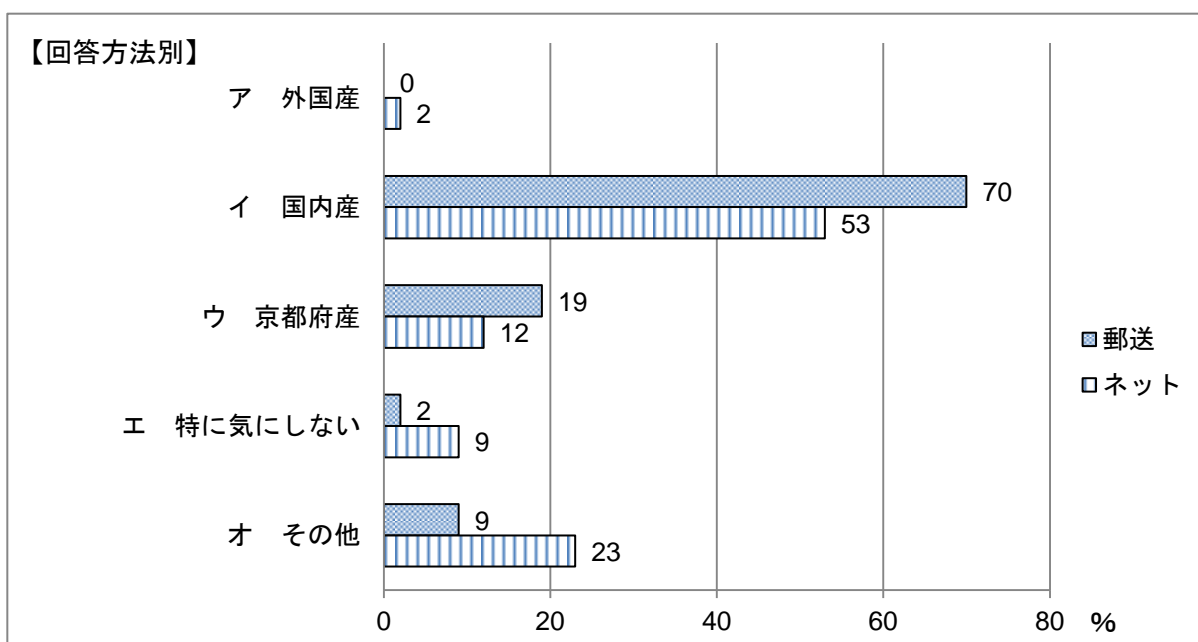
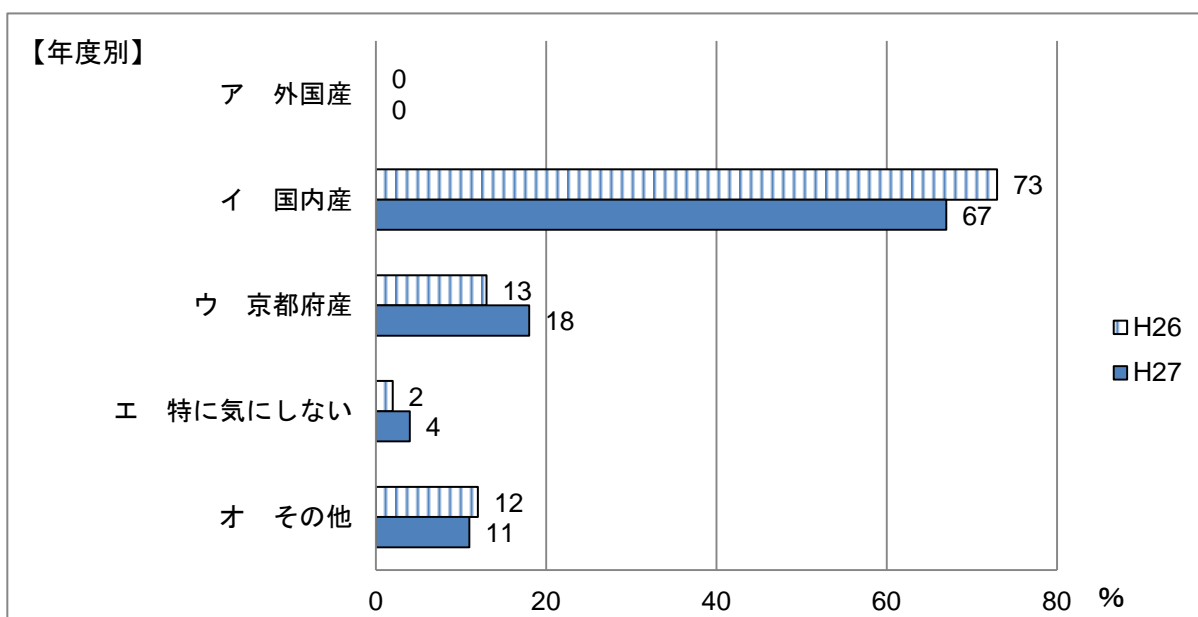


「生産者やメーカーが信頼できること」、「鮮度や保管（保存）状態が良いこと」と回答した人が最も多く、119人（18%）であった。次いで、「販売しているお店が信頼できること」111人（16%）であった。

問8 あなたは、食品を購入する時に、どこの産地を選んでいきますか。  
次の中から1つ選んでください。

(単位：人)

|           | 郵送         | ネット       | 合計         |
|-----------|------------|-----------|------------|
| ア 外国産     | 0 (0%)     | 1 (2%)    | 1 (0%)     |
| イ 国内産     | 130 (70%)  | 23 (53%)  | 153 (67%)  |
| ウ 京都府産    | 35 (19%)   | 5 (12%)   | 40 (18%)   |
| エ 特に気にしない | 4 (2%)     | 4 (9%)    | 8 (4%)     |
| オ その他     | 16 (9%)    | 10 (23%)  | 26 (11%)   |
| 合計        | 185 (100%) | 43 (100%) | 228 (100%) |





## 【その他の意見】

### 安心に関すること

- ・信頼できそうな産地であること。
- ・食べ慣れているものは外国産でも気にしないが、国産なら安心というイメージはあるし、応援したい気持ちが強い。

### 地産地消に関すること

- ・スーパーで地産のものがある時は必ず買う。
- ・生産地は近隣にあるのになぜ遠隔地のものが店頭にならんでいるのか理由がわからない。基本的にはできるだけ当消費地に近いものを選ぶ。
- ・地産地消と旬を意識している。

### 品目に関すること

- ・ほとんど国内産を選ぶが、品目によっては外国産を選ぶ。 4人
- ・できるだけ国内産のものを探すが、国内産がない場合は外国産を購入する。

### 農薬・放射線等に関すること

- ・京都府産にこだわらず、出来るだけ西日本のもので、放射能汚染がされてなさそうな地域を選ぶようにしている。
- ・農薬、食品添加物をなるべく使用していないものを選ぶ。使用していても、その情報を正確に公開しているもの、厳しい放射能検査を行っているものを選ぶ。
- ・福島原発事故後はなるべく西日本のものを選んでいますが、品目によっては、産地よりも検査を行っていることが重要なので、品目に合わせて選んでいる。

### その他

- ・天候不順等により、国産の生鮮食品の販売量が少なくなったり価格が高くなったりした時は、外国産のものを購入することもある。
- ・中国産以外のものを選んでいく。 2人
- ・美味しくて安いものを材料ごとに選んでおり、産地は重要視しない。
- ・作られたものが人の口に入って、体の中でどのように働くのか、人の健康・いのちに大きな影響を与える「食べもの」を作っているという意識を持って、ご自身のお子さん、お孫さんに、毎日・毎食でも食べさせたいと思えるものをご提供いただきたいと思います。

「国内産」と回答した人が最も多く、153人（67%）であった。次いで、「京都府産」と回答した人が40人（18%）であった。「その他（品目により異なる産地を選んでいく等）」と回答した人は26人（11%）であった。

(7) 食品表示について

問9 食品表示に係る規定を一元化し、事業者にも消費者にもわかりやすい制度を目指した食品表示法が、平成27年4月1日から施行されました。

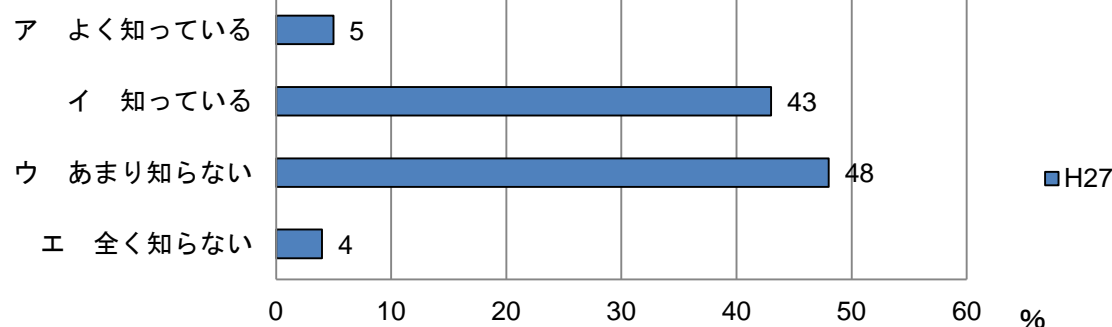
あなたは、食品表示法について、どの程度知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

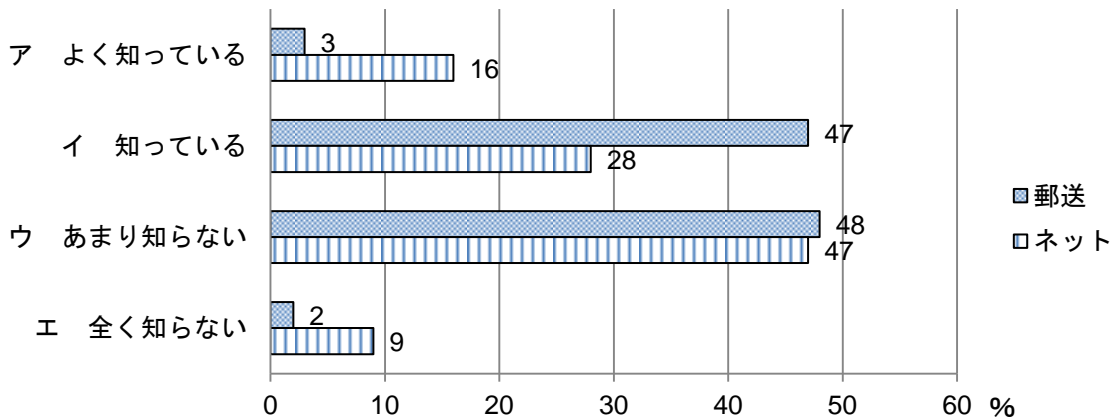
(単位：人)

|           | 郵送         | ネット       | 合計         |
|-----------|------------|-----------|------------|
| ア よく知っている | 5 (3%)     | 7 (16%)   | 12 (5%)    |
| イ 知っている   | 86 (47%)   | 12 (28%)  | 98 (43%)   |
| ウ あまり知らない | 89 (48%)   | 20 (47%)  | 109 (48%)  |
| エ 全く知らない  | 4 (2%)     | 4 (9%)    | 8 (4%)     |
| 合計        | 184 (100%) | 43 (100%) | 227 (100%) |

【年度別】



【回答方法別】



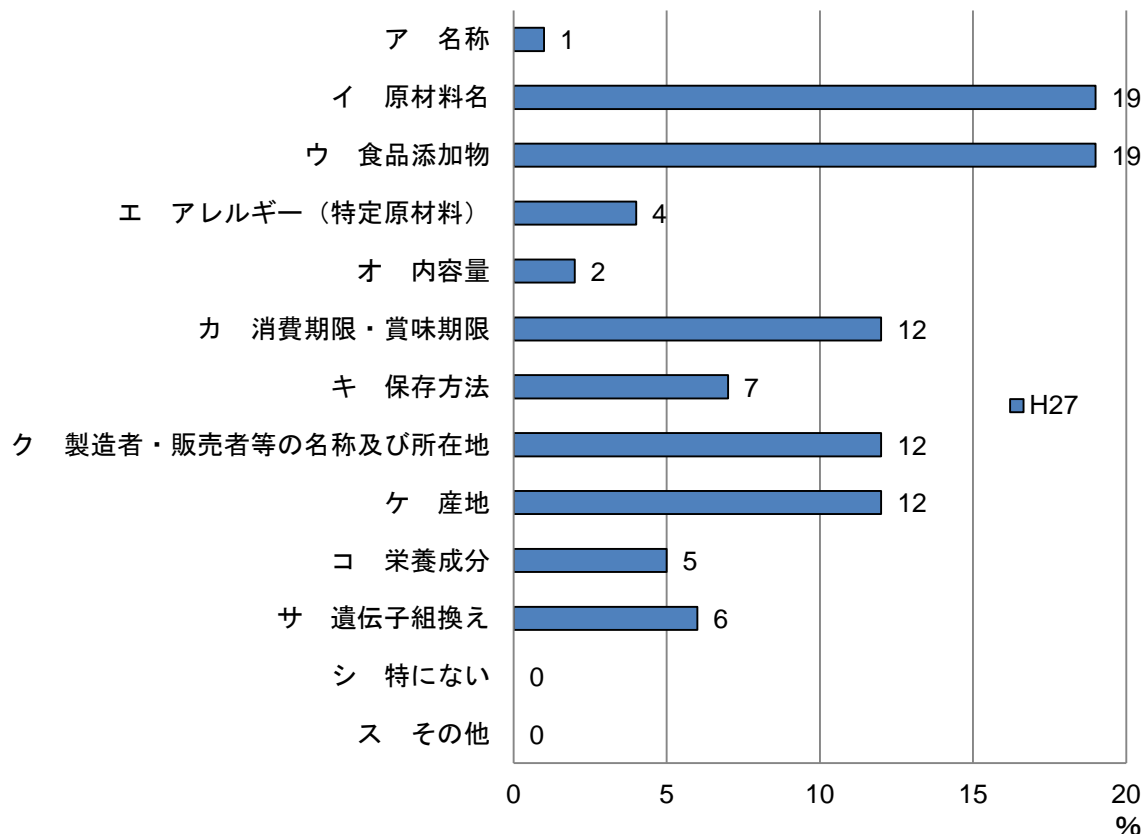
「あまり知らない」と回答した人が最も多く、109人(48%)であった。次いで、「知っている」と回答した人が98人(43%)であった。「全く知らない」と回答した人は8人(4%)であった。

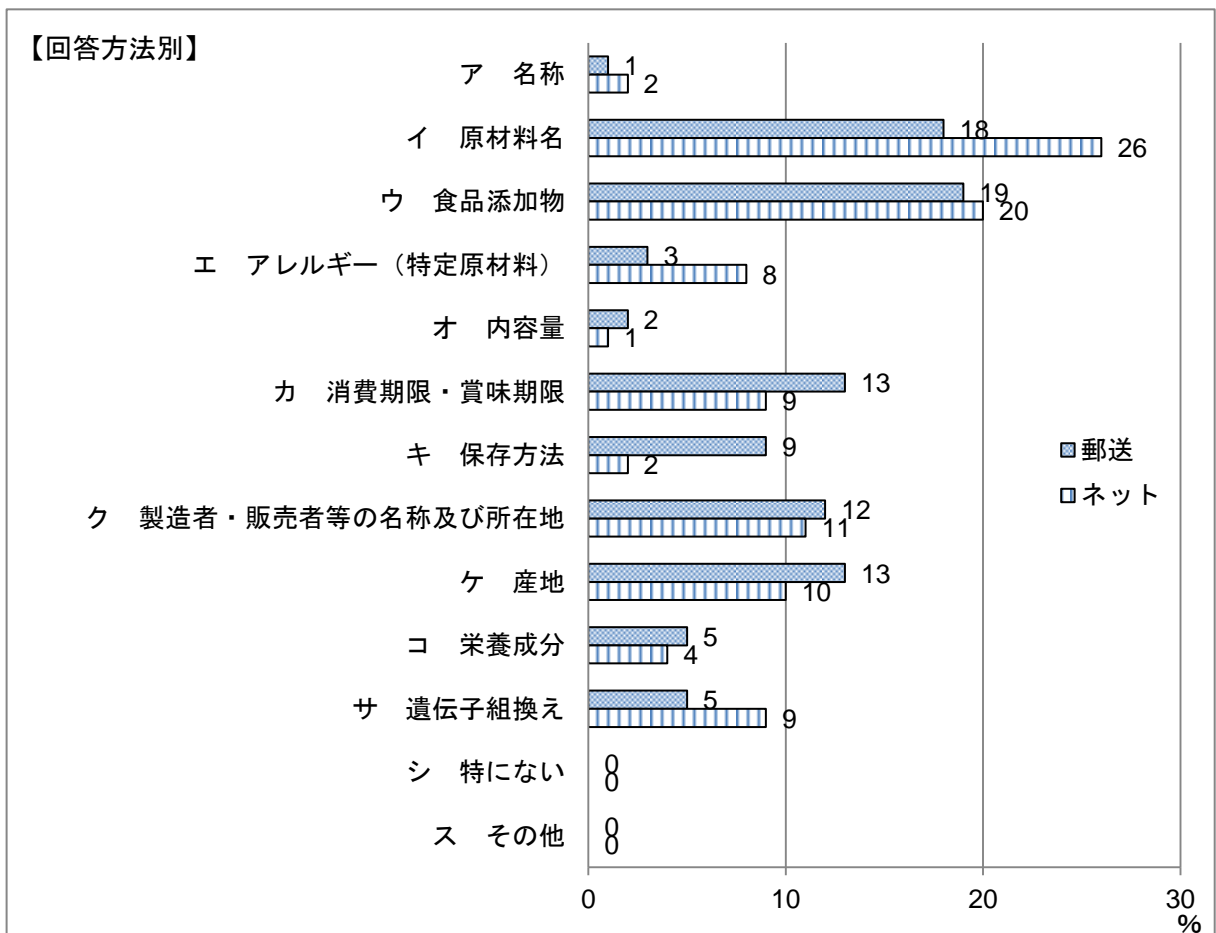
問10 食品表示について、あなたがもっと知りたいと思う情報は何ですか。  
次の中から3つまで選んでください。

(単位：人)

|                    | 郵送         | ネット        | 合計         |
|--------------------|------------|------------|------------|
| ア 名称               | 7 (1%)     | 2 (2%)     | 9 (1%)     |
| イ 原材料名             | 98 (18%)   | 33 (26%)   | 131 (19%)  |
| ウ 食品添加物            | 104 (19%)  | 25 (20%)   | 129 (19%)  |
| エ アレルギー（特定原材料）     | 17 (3%)    | 10 (8%)    | 27 (4%)    |
| オ 内容量              | 10 (2%)    | 1 (1%)     | 11 (2%)    |
| カ 消費期限・賞味期限        | 71 (13%)   | 11 (9%)    | 82 (12%)   |
| キ 保存方法             | 47 (9%)    | 2 (2%)     | 49 (7%)    |
| ク 製造者・販売者等の名称及び所在地 | 65 (12%)   | 14 (11%)   | 79 (12%)   |
| ケ 産地               | 69 (13%)   | 13 (10%)   | 82 (12%)   |
| コ 栄養成分             | 28 (5%)    | 5 (4%)     | 33 (5%)    |
| サ 遺伝子組換え           | 30 (5%)    | 11 (9%)    | 41 (6%)    |
| シ 特にない             | 1 (0%)     | 0 (0%)     | 1 (0%)     |
| ス その他              | 1 (0%)     | 0 (0%)     | 1 (0%)     |
| 合計                 | 548 (100%) | 127 (100%) | 675 (100%) |

【年度別】





【その他の意見】

- ・製造者はわからず、販売者のみの製品がある。（みやげものなど同一品物がいろいろなところで販売されている。）

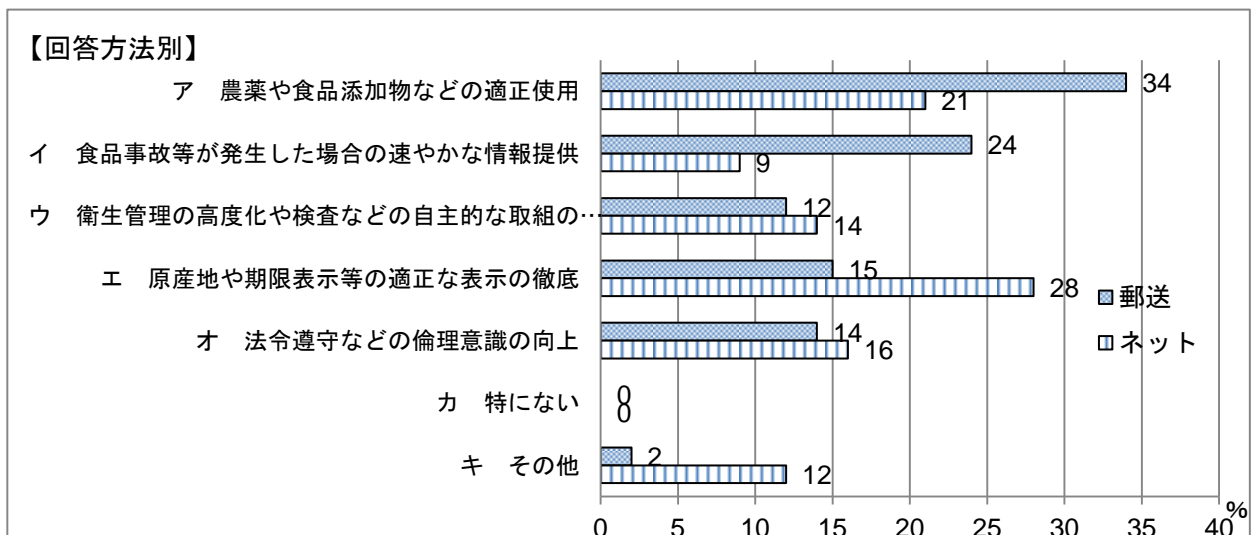
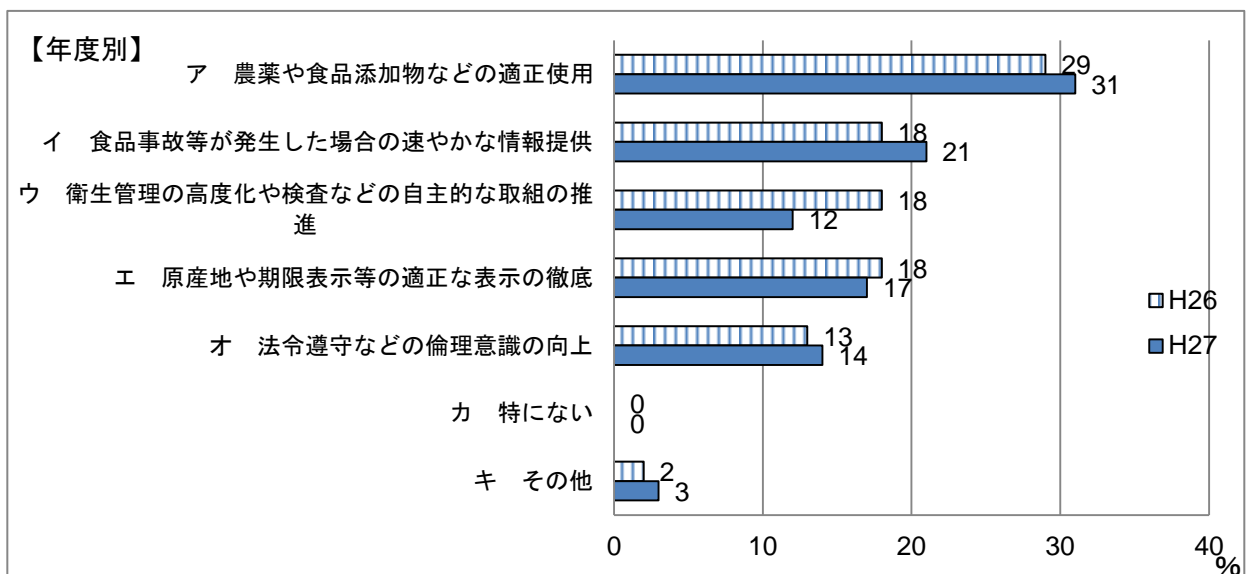
「原材料名」と回答した人は131人（19%）、「食品添加物」と回答した人は129人（19%）であった。次いで、「消費期限・賞味期限」と回答した人が82人（12%）、「製造者・販売者等の名称及び所在地」と回答した人が79人（12%）、「産地」と回答した人が82人（12%）であった。

(8) 食品安全のために望む取組

問 11 あなたは、安心・安全な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」に望む取組は何ですか。次の中から1つ選んでください。

(単位：人)

|                           | 郵送         | ネット       | 合計         |
|---------------------------|------------|-----------|------------|
| ア 農薬や食品添加物などの適正使用         | 63 (34%)   | 9 (21%)   | 72 (31%)   |
| イ 食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供   | 44 (24%)   | 4 (9%)    | 48 (21%)   |
| ウ 衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進 | 22 (12%)   | 6 (14%)   | 28 (12%)   |
| エ 原産地や期限表示等の適正な表示の徹底      | 28 (15%)   | 12 (28%)  | 40 (17%)   |
| オ 法令遵守などの倫理意識の向上          | 26 (14%)   | 7 (16%)   | 33 (14%)   |
| カ 特にない                    | 0 (0%)     | 0 (0%)    | 0 (0%)     |
| キ その他                     | 3 (2%)     | 5 (12%)   | 8 (3%)     |
| 合計                        | 186 (100%) | 43 (100%) | 229 (100%) |



## 【その他の意見】

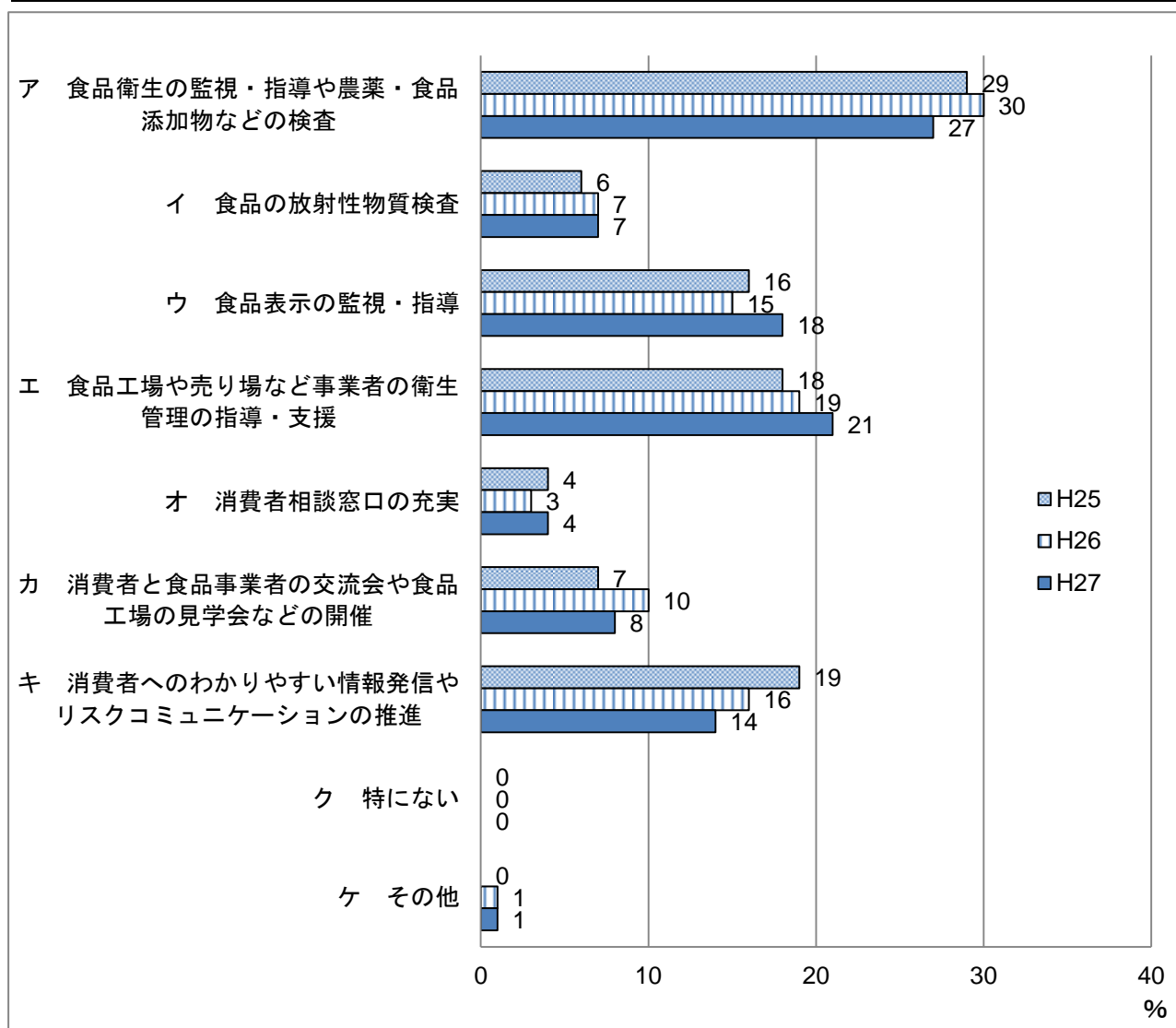
- ・なるべく薬に頼らない食品づくり、取組み。人体への影響を少なくする努力。困難なことですが、あまりにも添加物も多すぎる！ 加工食品は現代の日本添加物が多く使用され、決して安全ではなく、慢性毒性による害から色々な病を引き起こしていると思われる。TPPでますます大雑把な表示になるらしいとのこと。もっと食を大切にしていきたい。
- ・すべての項目が大切なことで、業者には自分や自分の家族が口にする気持ちで製造販売してほしいです。モラルの問題ですが。
- ・加工食品の原料原産地名は現状、表示しなくてもよいことになっていると認識しているが、表示を義務づけてほしい。現状、中国産の原材料を仕入れて日本で加工すれば日本製の表示になるので、消費者としては不安。現状、加工品は原材料がどこのものを使われているかわからず、不安が大きい。
- ・自分自身が安心して食べられる食品を消費者に届けてほしい。
- ・食品のトレーサビリティを全食品に適応していただきたい。特に加工食品については原産地も表記されていないものもある。
- ・違反者には刑罰の強化をしてほしい。
- ・「農薬や食品添加物の適正な使用」、「法令遵守」などは当然のことで、それ以前に食品を扱う以上、その使用量や方法、法令の基準を含め、健康にとって適正なのか。より健康的なもの、安全なものを追求してほしい。
- ・環境（地球温暖化防止）
- ・自分たちの安心、安全を考えることは、環境の安心、安全を考えることと同じだということ。
- ・日本の食を守る取組みも重視したい。

「農薬や食品添加物などの適正な使用」と回答した人は72人（31%）と最も多かった。次いで、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」と回答した人が48人（21%）、「原産地や期限表示等の適正な表示の推進」と回答した人が40人（17%）であった。

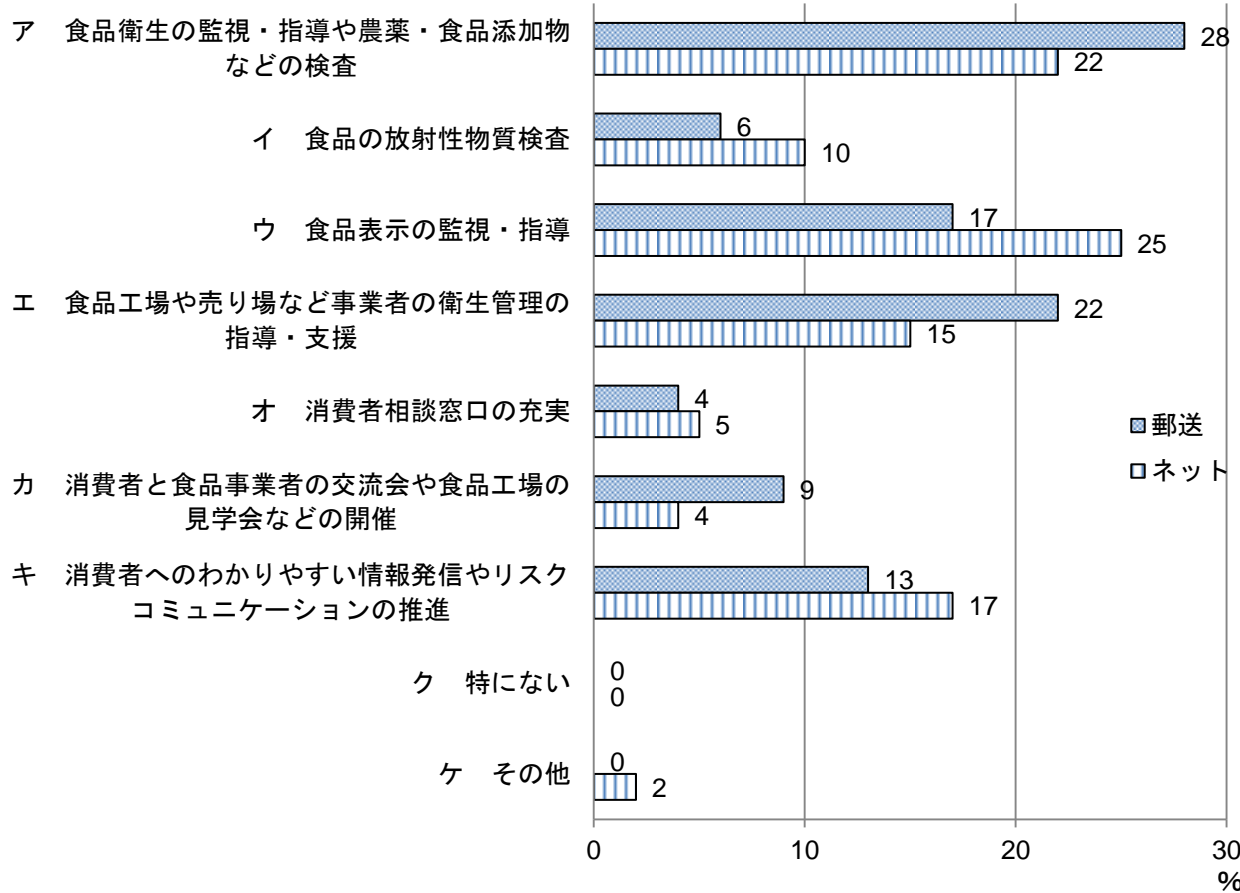
問 12 食品の安全を高めるために、京都府がさらに強化すべき取組は何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

(単位：人)

|                                   | 郵送         | ネット        | 合計         |
|-----------------------------------|------------|------------|------------|
| ア 食品衛生の監視・指導や農薬・食品添加物などの検査        | 144 (28%)  | 28 (22%)   | 172 (27%)  |
| イ 食品の放射性物質検査                      | 32 (6%)    | 13 (10%)   | 45 (7%)    |
| ウ 食品表示の監視・指導                      | 85 (17%)   | 32 (25%)   | 117 (18%)  |
| エ 食品工場や売り場など事業者の衛生管理の指導・支援        | 112 (22%)  | 19 (15%)   | 131 (21%)  |
| オ 消費者相談窓口の充実                      | 21 (4%)    | 6 (5%)     | 27 (4%)    |
| カ 消費者と食品事業者の交流会や食品工場の見学会などの開催     | 44 (9%)    | 5 (4%)     | 49 (8%)    |
| キ 消費者へのわかりやすい情報発信やリスクコミュニケーションの推進 | 68 (13%)   | 21 (17%)   | 89 (14%)   |
| ク 特にない                            | 2 (0%)     | 0 (0%)     | 2 (0%)     |
| ケ その他                             | 2 (0%)     | 3 (2%)     | 5 (1%)     |
| 合計                                | 510 (100%) | 127 (100%) | 637 (100%) |



【回答方法別】



【その他の意見】

- ・何かあった時、行政に相談したいのですが、こちらの問いにちゃんと答えてもらえるかと思ったり、伝わらなかったらどうしようとか内容に対し受け止めてもらえるかと不安になったりして、どうしても我慢して相談できないでいます。ちゃんと対処、また、言っていることを理解できる人たちを導入して頂きたいです。
- ・京都産と他の県との取り組みの差がよくわからない。PR もされてないと思う。
- ・京都府産に限りいろいろな対策がとられていますが、食生活の実態は京都府産の食品だけで賄われているわけではありません。特にコストとのかかわりでもあります。したがって、京都府内で販売する食品について産地を問わず安全への取り組みを行っていただきたい。
- ・部局や組織を越えた連携、情報の共有、公開
- ・国が定めた基準での表示は安心できない。

「食品衛生の監視・指導や農薬・食品添加物などの検査」と回答した人は172人（27%）と最も多かった。次いで、「食品工場や売り場など事業者の衛生管理の指導・支援」と回答した人が131人（21%）、「食品表示の監視・指導」と回答した人が117人（18%）であった。



問 13 食の安全について、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

【食品表示について】

- 添加物など、一括表示のものは何が入っているかわからない。一般の人でもわかるような表示方法にしてほしい。また、産地が書かれていないものが多いので、表示してほしい。たとえば「ごま」。製造者が書いてあるだけのものが多い。問い合わせたら外国産とわかった。
- 生産者の自主申告（表示）について、第三者機関による確認を行い、信頼性を担保する制度を確立してほしい。その範囲拡大を通じて、「食の安全」への信頼度が向上する。
- 各種表示を分かりやすい言葉で、可能な限り大きく。
- 肉の生産先を明記してほしい。
- 私の理想は裏を見ずにお買い物です。
- 食品を手取るにあたり、別に何も気にしなくても良い品物が店頭で並ぶことを願う。
- お土産物には食品表示が少ないので、栄養成分表示やアレルギー表示があればいいと思います。
- 旅先で土産物を買う時、また、土産物いただいた時、お菓子類に栄養成分表示がなく困ることが多いです。これらの表示はできないもののでしょうか？
- よくお土産で「販売者」のみのシールが貼ってあって製造先の表示がなく「どこのどなたが作られたものなのか」不安になります。製造元の表示があると安心します。「もずく」を買った時、製造・消費期限が外のナイロンのみ表示されていて、数個のうち一つが残った時に何日までの消費期限かわからなくなる時があるので、全部に日付表示があるとありがたいです。
- 産地・消費期限に不安が多い。
- 野菜やきのこ類なども内容量が書いてあると嬉しい。
- スーパーなどで二重包装の品物があるが、理由を表示してほしい。出来れば二重包装の品物は店頭に出さないでほしい。
- らっきょうのビニール袋入りが安くてよく買っていたのですが、ある日中国産と読んでびっくりしました。それ以来自分でらっきょうを買って漬けています。老眼になり小さい字が読みづらくなりました。もっとよくわかる表示にしてほしいと思います。
- 国産だから安心だとも思いませんが、法の網の目をすり抜けて優良・有利に誤認させようとしているように思えて、食品表示はどれも疑わしい…というのが正直なところです。法律はどんどん変わっていくので、本当はわかりやすく変わってきているのかもしれませんが、田舎のスーパーだと店の方がそれをご存じない場合もあって、表示に問題があるのでは？ と思いながら買い物すること

もしばしばです。「安全だ」と聞いて消費者が本当に「安心」できるようになるといいですね。

- 加工食品、特に弁当の食品表示はほとんど底面に貼付してあるので、見る事ができません。ひっくり返すと中身がくずれるので、「業務妨害」か「器物破損」罪になりそうで、そこまでして確認する勇気がありません。貴課に質問したら「表に貼ったら中身が見えないでしょう」「貼る場所は法律で決まっています」とのこと。今後見えやすい場所に貼るよう指導の予定があるかと質問しますと「その予定はない」とのことです。当課がこれでは食品表示は全く形骸化です。
- 消費者は食品を購入する時、パッケージの表記を見て選ぶことが多いので、正しい表記が行われる様にしてほしい。
- 加工品にも遺伝子組み換えを表示すべきだと思う。

#### 【産地表示について】

- 「国内産」と「外国産」がいい加減に表示されているのでは？ といつも疑いの気持ちがあります。しっかりと監視・指導をお願いします。
- 輸入食品については、厳重な検査済みのものを消費者に届けるようにした。国産品が非常に高い値がついているので外国産に手が行きそう。国産を食べたい。
- できるだけ食品は国産を選んでいますが、価格の点で外国産を選ぶ時があります。中国産は論外ですが、オーストラリアやアメリカ産などの安全度が分からず戸惑うことがあります。もっと店頭での表示やメディアでの発信があると判断材料になると思います。
- 外国で生まれていても日本での飼育が長ければ国産牛になったり、海の物（ウナギなど）でも結局は消費者が喜ぶように「国産」扱いにするものが多いように感じます。
- 国内産、京都府産を選んで購入しておりますが同一食品でも価格差があり、年金生活者には大変です。少しでも安心安全な食品をと願っております。よろしくお願い致します。

#### 【食品の偽装について】

- 産地偽装もかなりあるようなので、産地偽装を徹底してなくしてほしい。
- 偽装表示の監視・指導を要望します。
- 色々な情報や消費者の目が厳しい中、偽装食品が次々と出てくるのが信じられません。生産者・製造者の人々のモラルの向上と社会が指導されることを望み、安心・安全な食品が子・孫に受け継がれることを願います。
- 問2にありましたが、生産者や加工業者がなぜ偽装行為をするのか腹立たしく思います。信頼関係がなくなると購買意欲もなくなります。
- 偽装等あれだけ問題になっていても、目先の利益のためにごまかす業者がまだ存在する。行政で指導してもその日だけ良い対応をすることもある。抜き打ち

や地元の人々の活用、従業員の聞き取りなど、安全対策にはきっちりと取り組んでほしい。未来へ負を残さないためにみんなでしっかり考える必要がある。

- 偽装など、食品事業者の不正が後をたたない。次から次へと発覚し、不安でしょうがない。なんとかならないものか？ 現状の食品事業者に対する監督チェックが甘いのではないか？
- 食品偽装等あってはならない事件です。食の安心・安全が担保された制度の運用を切望します。
- 産地偽装は巧妙に仕組まれ一向に減らず、その道のプロなら良否の判断が可能な品物でも、金儲けを優先し、複雑な流通ルートをわざと仕組み、共同謀議ですり抜けようとしている。消費者に廃棄物を食品として提供する悪質な業者は、TVインタビューでも犯罪意識が全くなく、居直りの有様。悪質な業者に対する罰則を強化すべきと判断いたします。

#### 【食品添加物について】

- 特に子供たちの食の安全は大切なことなのに、添加物だらけが恐ろしい現在です。
- 一つの食品に添加物が多すぎるほど使われています。こんなに使わないといけないものなのかと思います。
- ほとんどの食品に添加物が使われており、ひとつひとつは安全基準内でも複合的に摂取したとき大丈夫なのかなど不安。なるべく使わないでほしい。アメリカで規制が決まったトランス脂肪酸については、日本でも規制を考えてほしい。
- 添加物のない商品が店頭では殆ど手に入らない。あまりにも氾濫しすぎている。

#### 【アレルギーについて】

- アレルギー以外にも、自閉症、腸の病気など、GMOや食品添加物が原因と言われる疾患が増えていると言います。アレルギーの人にとったら、アレルゲンの入った食品は食べものではなく「毒」と言えます。弱者に寄り添った「安全性」の追及をぜひ食によって苦しんでいる人の声を活かして、本当の「食の安全」を目指してほしいと思います。
- 毎日食べるものですから、安心・安全が一番ですが、最近はアレルギーの人が多くなっているのでも、その分もう少し掘り下げて勉強していきたい。何故なのか？ 非常に難しいことだと思うが、特に子どもに多いような気がします。

#### 【農薬について】

- 消費者の安全の意識の指導（農薬の最小限使用、洗浄水の汚水などの禁止等）。生産者の意識を指導していただきたい。
- なるべく京都府内産のものを食べるようにしている。残留農薬や、海で汚染されているかもしれない魚は本当に私たちの体内に入っても大丈夫かな？ と思

うことがある。消費者は、見た目ではわからない。野菜は自家菜園で作っていますが、空気中の汚染物質がどの位影響しているのか、値を測ることができず心配です。これまでは春の黄砂の心配だけだったのに、今では年中 PM2.5 の心配もあり、野菜作りも難しいです。

- 食については生きる基本であり、そのためにはまず、安心・安全でありますように。特に農薬については気になります。地産地消と言えども農薬なくして生産できないと聞きます。
- 目に見えないだけに、信じるよりほかありません。害虫は農薬に抵抗力がつき、農薬もだんだんきつくなるとも聞きます。故に農薬を含めそれぞれの添加物にも十分な行政さんの検査・指導等よろしくお願い致します。
- 亀岡から北に向かって丹波・丹後は寒暖の差が朝夕烈しいので、野菜のうま味と味が濃くて美味しい。栗も美味しい。果物は？ あまり農薬は使用しないでほしい。

#### 【汚染物質等について】

- 食は生命を守る大切なもの。安全な農産物は安全な土があつてこそ。土についての研究関心が高まる事を期待している。
- 放射性物質の安全基準などについて、本当に国の基準で十分かどうかのエビデンスを伴った説明が足りていないと思う。
- 私たちには見えない汚染物質の数々。府民の健康を守るために、ぜひ京都府の監視、検査、指導の強化をお願いします。

#### 【地産地消について】

- 生産者から直接消費者に販売するシステムを強化・増加させること。
- 地産地消が良いことはよくわかっていますが、全部というわけにもいかず、近くのスーパーに行ってより新しいもの、おいしそうなものを買って消費しています。
- 近くでイベントや講習会があれば、都合がつく場合は参加させてもらっています。郷土食に関心があるので、簡単なレシピが載っている冊子があればうれしいです。
- できるだけ地元のお店で、お店の方に聞きながら買いたいと思っています。きれいにパッケージされたものもよいけど、どこで誰が作ったものかがわかる方が安心できます。野菜等はよく利用します。

#### 【廃棄食品・食品ロスについて】

- 私たちの身体・健康に一番必要な食品の重要性を年々強く感じます。私たちの目の届かない生産や流通の面の取り締まりに目を行き届けていただきたい。また、大切な食品の廃棄問題等もっと無駄のないようにも取り組んでいただきたい

いと思います。消費者も見てくれだけを見て、例えば曲がったきゅうりやなす等が良いというのではなく、製品そのものを見極める目と認識を持ちたいと思います。

- 野菜などはできるだけ近所の農家の方の庭先などで購入しています。スーパーやお店のように形はそろっていませんが、新鮮でとてもおいしいです。時には調理法を教えてもらったり、コミュニケーションができるのも嬉しいです。加工品について悪質な業者の廃棄食品が販売されたり、缶詰の中にわからないように他のものを混入したりと、次から次へとニュースでも取り上げられます。わからないまま信じて購入したりしているかもしれないなど不安になります。知識や情報をしっかりと持ち対処しなければならないのでしょうか。それにも限界があるように思えます
- 廃棄食品の横流し販売はとてもショックでした。やはり事業者や食に係わる担当者は、立場を利用して儲けに走ってほしくない。生きている人はすべて消費者なのだから。
- 美しく加工された冷凍食品や見栄えのよい野菜などがスーパーに行けば手軽に手に入る豊かな時代ですが、コンビニなどから出る大量の食品廃棄物をテレビで見ると、どこか間違っていると感じます。捨てるのが当然として生産されることが、横流しなどの犯罪を生み、貧しい国の人々を救うことなどに使われない現状は残念に思います。米の生産農家である我が家でも、一生懸命指導に従い、良いお米を作る努力をしています。一等米として認められたお米が正しく流通され、消費者に喜んでもらえることを願います。また、価格がもう少し上がってほしいと思っています。
- 廃棄物を使用した弁当等、長年に渡り見逃されていた事件を受け徹底を図ってほしい。
- 多種多様なので焦点も絞りにくく、食品問題は難しいなと思っています。ただ、先日愛知県の廃棄業者が廃棄食品を再販売した問題は、他の業者で絶対にはないとは言えないような気がします。京都府でも廃棄食品の対応を明確にして欲しいと思います。

#### 【食品衛生について】

- 食品事故（食中毒）が発生した場所、日付、業者等を公表してほしい。
- 食中毒に対する対策、消費者への指導を徹底してほしい。
- 見切り品を買う時、見た目ではそれほど悪くないと思って買ってみたらひどかった時が多々ある。野菜・果物などは何日前にお店に並べられた商品なのかわかると目安になるので表示してほしい。
- 魚介類の店に行った時、店頭で魚の塩物やその試食などにハエがたかってすごかった。二度と買いに行きたくない。店内も同様だった。保健所はこの件をどの様に考えているのか。仕方ないでは済まされない問題だと思う

- 缶詰（ビーンズ）を開けたら、消費期限内なのにカビが生えていたことがあり、保健所へ持って行ったことが何年前にあった。返事はもらったが原因不明。わりきれない気がした。買った店へ持って行った方がよかったのか？ 未だに缶詰に不信感あり、怖い。
- 生産者、特に小売りへの流通の仕組みが、食品衛生に対する果敢な取り組みを充分理解されているのか心配。特に、これから TPP で外国から輸入される食品は、管理・指導を充分行うこと。価格を優先する生産者には不安を感じる。特に、食品は季節的な影響を受けやすい。鮮度を維持する保管も気になる。賞味期限は鮮度と関係していると思う。食の安全は生産者のレベルを管理すべきだと思う。
- 販売（所）者の食品の管理が適切に行われているか。特に夜間の温度管理など食品が適温で保存されているかが心配。最新の情報が知りたい。
- 全て食に関わる者は手洗い徹底、トイレの「水」、「洗剤」をケチらない！！
- ジビエの扱い規制が緩すぎる。地域の魅力発信などのイベントで適正な処理をされたかどうか？ 怪しいジビエが流通してるのはいかがなものか？ と思います。イベントなどは正規の処理場で処理された肉厳守とかにしないと、いずれ大きな事故が起きると思います（個人消費は別として）。

#### 【調査・検査について】

- この食品は大丈夫かなと思った時、検査をしてもらえる様なシステムがあれば嬉しい。全部は無理だろうが、例えばスーパーなどで検査希望のものにチェックとか、何らかの方法で多数の物を選定するなど。
- 検査をするのは抜き打ちでやってほしい。
- 行政という監督権限のある組織である以上、常に府民のために、厳しいチェックを重ねてほしい。
- 商店などでパック、その他のうつわに盛り売りしている商品で、冷凍品のサンマ・肉類などは、購入してから家に帰るまでに冷凍が溶けてしまい、多分容量が違うと思います。余分に重量に入っていればいいのでは？ こんな調査をしてほしい。

#### 【食の安全に関する情報について】

- 食の安全については、レベル I～V 位に分けて、I（身体に影響なし）～V（重大なダメージを与える）が考えられるようにして対応するようになっていると思いますが、マスコミや新聞の報道もこれに沿ったようにしてほしい。
- 食の安心・安全について、より早くより正確な情報を社会全体が得られるように切に願っています。
- 本件の PR について、府民だよりを活用されたらどうですか。この件の報道は全くないです。

- 食の安心・安全に関する情報や、食育の講演会などがあれば参加したいと思います。
- 今回の食の安心・安全アンケート結果をいただいたら、団地内で活動しているサロンが毎月一回、集会所で色々な行事をしているので、その場でプリントアウトしたものを参加者の方に見ていただき、参考にしたいと思います。
- 今まで食の安全について自分なりに色々勉強してきたつもりですが、近頃はテレビ・新聞以外（図書）で学習する意欲がなくなってきました。もっと身近なもので知る機会があれば…と思います。
- 食の安全がもっと見えるようにしてください。
- 勉強会の機会がない。

### 【行政への要望】

- 行政の対応力のスピード化を望みます。
- 目の届かない所もありますので、よろしくお願いします。
- 若い時に消費者モニターをしたことがあるので今でも役に立っています。自分は年を重ねていますが、家族を含めて、健康で食で困ったことはありません。食の安全が一番大切なことですので、このような調査をしていただくのはとってもいい事だと思いました。ありがとうございました。
- 勉強会の機会がない。
- 京都府の施策に期待します。二度の骨折で杖とリュックサックで買い物に行っています。限られた年金で生活しています。食品の安全には価格も高くなるでしょうが、健康管理には仕方ないと思っています。よろしくお願いします。
- 生産者と消費者の交流の場を行政が設定してほしい。
- 不適正な食品に関する迅速な公表体制の確立、行政の厳正化、優良生産者への表彰・公表制度の拡充。
- 各種規制法の罰則強化・拡大。
- 地域の中で自分で作って食べている方々は少ない。店内で買ったものばかり。見守りしているとよくわかる。健康は自分から気をつけてほしい。（自分で作ったものをお裾分けすれば喜んでくださいます。月一回程度、公民館で会える日を楽しみにしていただきる方もあります。いつまで活動できるかはわかりませんがご指導よろしくお願いします。）
- 個人が勉強会に参加して食の安全について真剣に考えていくこと。行政の食に対する取組などを強化していただきたい。
- いつもリスクコミュニケーションに参加させていただくと感じるのですが、消費者の質問のほとんどが時間不足でカットされ、消化不良の状態を終了することが多いように思います。進行方法や内容を変えてみることも検討していただきたい。ただ単に、現行の検査や監視指導を強化するだけでなく、食品の安全について現状の見直し、取り組んでいただけたらと強く思います。

- 食品の安全については、常時点検、厳しい検査を徹底し、結果を府民に公表すること。府民が食品衛生や規則に関心をもつように情報を公開すること。府民も感心を持つこと。スーパー、コンビニなどの抜き打ち検査を定期的に行うなど、府民の安心・安全をもっと積極的に守ることを求める。
- 信頼される行政・業者であってほしい。
- 勉強させていただいて、大変なお仕事だと思いつつも感謝いたします。色々な抜け道があったりしますが、口に入る物ですので、監視・指導・強化等よろしく願いいたします。
- 「食の安全」に関わらず、一次担当職員の対応にばらつきがある。話をじっくり聞いて次につなげていただける方もいれば、窓口でいいようにあしらわれていると感じることがあり、納得いかなくてもそれ以上進まずに結果が出ず、消化不良のことがある。小さい意見が吸い上げられない状況が続くと、意見を出したくなくなる人が多い。
- 推進員として勉強していきたいと思います。現場研修会の実費を出しますので机上と並行して取り組んでください。
- 食への安心・安全は、今の時代あまり心配はしていません。しかし、食が本当の意味で「ちゃんと食べる」につながっているのか？ は考えてしまいます。何をかうか選ぶかは個人の選択ですが、大きな意味で京都の食材・素材、良い産品が京都の生産者と共に循環し、地球が潤っていく仕組みを京都府が一番に考えてほしいです。そして廃棄問題も気になります。飽食の時代に子供が食べられない貧困の実態が TV で放映されていましたが、とても矛盾を感じます。食に関する全ての問題について、縦割り行政ではなく、横の関係を太く（行政の中、人も）して対策して行かないといつまでたっても変わらないと思います。
- 働いている女性にとって、毎日買い物する中でひとつひとつ細かくチェックする時間（ゆとり）がない。業者は決められたこと・法律を守ることに徹してほしい。信用は金を生むと言われるように、信用することしかできないことも多々あるので、京都府の食に関する取組の強化をお願いしたい。
- 事業者が行政などと食品のリスクについての情報や意見交換をし、衛生の監視・指導をし、理解を深めて食の安全・安心につなげてほしい。
- 食品衛生、表示などの監視は大切な事だと思います。少しでも多くの目である必要があると思います。衛生面、産地等偽装、添加物などは生産者や販売者のモラルの問題。指導できることはこまめに足を運んでいただきたい。消費者にも色々な方がおられるとは思いますが、真剣に選んで購入し、消費している人がいるということを生産者、販売者にもわかっていただきたい。改善が見られない業者は、消費者に何らかの形で発表してほしい。ちょっと違った内容かもしれませんが、まじめに取り組んでいる業者や生産者を何かの形で消費者に発表していただくと選びやすいし、小規模生産者（昔ながらの製法、販売等）を紹介する冊子などを作っただけだと、廃棄するまじめな生産者が少しで



も減るのではないだろうか。各地元におられる方々で守っていくことができるのではないのでしょうか。

- できる限り安全な食品を使いたいと思います。問 12 の項を一層よくご指導をお願い致します。ご苦勞様ですがお頼み申します。
- 消費生活グループで色々と勉強会などをしておりますので、食の安全の取り組みの中で視察などできる工場などがありましたら、現場を見て学習ができたと思います。
- 食の安全・安心の徹底。
- 府内での販売に対して、全食品に対しトレーサビリティの強化を図り、安心して食せる街にしたい。府条例を作るとかして、京都で住まうことの安心度を高めていただきたい。違反販売業者への行政指導並びに罰則を強化してほしい。それらに対するコストは、地産地消を前提にし、流通経路を少なく合理的にすることで賄えると考えられる。
- 本当に行政は府民に対して向き合っているのか？ 国や市町村の組織と向き合うのではなくもっと府民のほしい情報など人の気持ちになって府民と向きあって仕事をしてください。府の組織のために働くのではなく府民のために働いてください。
- この間発生している食の安全に関する問題は、事業者や従業員等の「悪意」によるものが多いと感じています。今の食の安全行政は性善説の上に成り立っていますが、対応に限界がきていると思います。国の対応待ちになるのではなく府条例などでの対応強化をする事も検討してください。
- 行政がしっかり監視し、その情報をしっかり、迅速に伝えてほしい。
- 食は即健康に影響するので、生産・流通・表示などでの厳重な指導・監視体制は必要です。しかし、我が国は諸外国と比して最も安全性は守られていると思っています。その思いを事業者・関係機関は裏切らないようにしてほしいと思います。
- 食の安全についてしっかり取り組んでいただきたいと思います。
- 食品に関する関係法律を守らないメーカー・販売者を公表してほしい。
- 販売者・製造者に対し、法を破ったものには罰則・罰金等の強化を望みます。製造所等への無差別の立入検査の強化をしてほしい。
- 安全なものが安心して食べられる基本的なこと、信頼できる関係が生産者と消費者との間にできれば良いと思います。生産者さんと交流することでしょうか？

#### 【その他】

- TPP（農作物の輸出）と和食ブームで、京都ブランドや野菜の安全性、美味しさはより求められると思います。そこで JA と協力して新しい攻めの農業のあり方を考えてはと思います。第一に、農家の人たちの知識や知恵を集め残してお

くことが大切だと思います。そのために、各地域で経験豊富な農家の人に民生委員のように委託をして、準公務員として働いてもらいます（もちろん名誉職として）。例えば農地の集約のため、地域の農地の所有者を調べたり、水害を防いだり、農作物作りのために必要な水の現状を調べたり、丈夫な苗や豊かな土作りを研究所や大学と提携して行います。温暖化の中で採れる作物の変化や作り方の工夫なども調べ、全国でまとめれば、どの作物が栽培しやすいか一目でわかります。これらのデータを行政で管理をして下準備をしておけば、企業や個人が農地を集約しやすくなるし、その土地に合う農作物をつくることができます。和食＝京料理のイメージも強いので、安全な京都ブランド野菜やお茶等がもっと広まり、輸出が増えれば、他の府県も見習って動かれるのではないのでしょうか。京都はそのための一歩を踏み出す事が出来る好位置にあると思います。

- 適正なレベルのリスク情報と、リスク感覚を持つことだと思う。わからないからといって単純に忌避したり、トラフィック情報を容易く鵜呑みにするという姿勢は、よくない。
- 今回もニュースで、千葉県・銚子市での輸出用さば缶詰にサンマを入れられていた件が報じられ、他にもあるのではと心配です。会社（工場）への不安感があります。
- 先日テレビで知りましたが、魚がとても小さいプラスチックを食べているそうです。その魚の内蔵を食べると、人間の肝臓にガンができるそうです。秋刀魚は今まで内蔵を食べている時もあったのですが、やめました。この件についての情報がありましたら嬉しいのですが。知人に話すと放射能は内蔵に蓄積されやすいのでその関係もあるのではと言いますが…。
- 昨年、伏見の施設で受講した時、遺伝子組み換え食品を長時間食べさせたモルモットが異常な動きになった映像を見たことを質問したら、「それは国の方で検査しているのでこちらでは返答できません」とのことだったが、TPP 米、加、豪では農業に薬品を用いているとの国会審議（改革結集の会の議員のやりとり）を見てさらに不安になった。真実は？
- 精肉類のトレーサビリティは我々に生かされていない。時々質問すると店はしどろもどろで調べるのに時間がかかるし、以前よりも店の関心が薄く感じられる。店頭ですぐわかるように張り紙するなど工夫が必要。府の指導が不足している。
- 健康食品の広告・表示に関する法律が変わり、知事、保健所のある省長も命令が出せるようになるそうです。怪しいジュース・蜂の子など…京都府内にも業者があるみたいです。地方厚生局、消費者センター、保健所との連携はどのようなかな…と思います。一緒に安全センターなどあれば良いと思う。
- 消費者庁への要望です。①女性の関心事である、化粧品などをはじめとするドラッグ製品。近年、多種多様な製品が並ぶようになりました。全製品が国の基

準をクリアしているのですから、安全性に疑問をもっているわけではありませんが“某カラーシャンプー”を使用すると、その目的は果たせても頭皮に痛みを覚えたり髪が細くなったと感じたり…。医療機関に行くほどもなさそうなのでそういう程度の副作用があるものと思ったり他製品に替えたりしますので、見逃されがちなのではないかと思います。「食の安全」に関しては消費者も敏感になってきましたが、マスコミにもっと取り上げて頂きたいです。私も高価な美容クリームをある期間使用してみて、その必要はないとの結論に。情報、PR 漬けの日々ですから惑わされたり、迷ったり、果てしない世界に文明人は踏み込んでしまったのでは…。自由経済社会のもとでは難しいかもしれませんが、環境汚染、資源の無駄遣い、意識が希薄になってきた感じがあります。賢い消費者教育も消費者庁のお役目かと。②「テレビ」ですが、明らかにメーカーの製品としての欠陥です。自動車やストーブ、ベビーカーなど生命に危険を及ぼすようなものは消費者庁も重視しますが、明らかに消費者にマイナスになっているものはもう少し積極的に関わっていただきたいと思います。リコールの幅（部品取り替えなど）を拡げてほしいです。

- いろいろ対策を考えた法令が作られていると思います。それらがすべて機能を果たせば、安全・安心な食環境が作られると信じています。
- 「コスト＝もうけ＝経営」から、次世代を見据えたスケールのあるライフスタイルへの転換（見直し）が必要。
- スーパーなどで時々店員さんに質問しますが、的確に答えてくれる人は少ないと思います。社員の教育をもっと高めてほしいと思います。